

福岡大学医学部同窓会

2000年秋号
烏帽子会会報

29
号



■ 第19回烏帽子会総会報告

■ 平成12年度福岡大学医学部同窓会
研究奨励賞選考結果発表

■ 平成13年度福岡大学医学部同窓会
研究奨励賞募集要項

目 次

・会長挨拶	
「何はさて置き、常にPLAYER」	高 木 忠 博 1
・第19回烏帽子会総会	
烏帽子会総会ならびに討論会を振り返って	詠 田 由 美 ・ 大 慈 弥 裕 之 2
討論会を終えて	松 本 直 樹 7
烏帽子会総会担当事務報告	宇 都 宮 英 綱 ほか 8
・11-1評議会議事録	10
・教授就任挨拶	
『志向清遠』	宮 本 康 嗣 14
宮本教授就任祝辞	菊 池 昌 弘 15
宮本康嗣博士の教授就任を祝う	犬 飼 邦 明 15
教授就任ご挨拶	向 坂 彰 太 郎 16
教授就任ご挨拶	斉 藤 喬 雄 17
主任教授就任ご挨拶	福 島 武 雄 18
・研究奨励賞	
平成12年度研究奨励賞選考報告	朔 啓 二 郎 19
平成12年度研究奨励賞受賞者の言葉	上 原 吉 就 ほか 20
平成11年度研究奨励賞受賞者研究報告	富 田 能 弘 ほか 21
・会員寄稿	
国試対策の思い出	辰 巳 裕 之 23
・支部便り	
佐世保支部会	山 川 裕 24
熊本支部近況	魚 返 英 寛 21
関西支部	中 川 俊 正 25
・クラス会	
第4回生クラス会	柴 田 陽 三 26
・キャンパス便り	
第52回 西医体結果報告	縄 田 秀 幸 27
・各地からの便り	28
・訃 報	
道祖尾さんの死を悼む	六 倉 和 生 29
・福岡大学医学部同窓会資料集	
第10期役員及び支部長名簿	30
第10期理事業務分担	31
平成11年度収入支出決算ほか	32
平成11年度財産目録	33
平成12年度事業計画	33
平成12年度収入支出予算	34
教育職員人事	34
医局長医長名簿	35
福岡大学病院外来担当医表	36
福岡大学筑紫病院外来担当医表	37
・平成13年度福岡大学医学部同窓会研究奨励賞募集要項	38
・事務局からの連絡とお願い	39
・編集後記	39

会長挨拶

— 是非、ご一読を —
『何はさて置き、常にPLAYER』

第10期烏帽子会会長 高木 忠 博 (1回生)



第10期烏帽子会会長就任にあたり、小生の今期の目標、抱負、お約束について述べさせて戴こうと思います。何故こんな書き出しにしたかは、自分たちの同窓会の執行部責任者が、今期、何を目標に動いて行くように考えているのかを、自分の言葉で明確に述べるのは『義務』

ではないかと考えるからです。中坊公平氏が、住宅整理機構総裁の職務に就いておられた時の対談の中で大変印象深い言葉がありました。それは、『指揮権を委任された人間は、それを委任した組織の人たちに対して最初にすることとして、自らの目標(的)を明確な言葉で述べなければなりません』という言葉です。そして最後に『指揮をしなければいけない立場になった人間は必ず、自らの退路を断つ、と言う覚悟を持たなければなりません。これは指揮を委任された人間の絶対的必須条件です。これが指揮責任者に無ければ全て何も実現しません』と結んでおられました。中坊氏にはこの確固たる覚悟があるからこそ、あの困難を極める社会問題を処理する情熱を持続出来、目的が達成できたのだらうと思いました。非常に含蓄のある言葉だと思います。この心の在り方は全ての『仕事を任せられた人間』に共通する、『仕事をする』という言葉の、本当の意味の中心を占める哲学だと思います。私は、中坊公平という人物は、まさに『自分はPLAYERである』という思考が微動だにしない人物であり、だからこそこの言葉が自然に出てくるのだと思います。言い換えると、中坊氏の言動は彼の精神に宿る、『評論家的』思考を完璧に払拭できる『個』から発しているものと解釈することが出来ます。

小生も、今までの評議員会に於ける会長改選では全て自ら立候補を表明しました。何故か？同窓会会長という仕事も常に『PLAYER』で在らねばならないと考えたからです。つまり権限を委任して戴いた2400人の全会員に、『会長選の透明性』を確保しなければ申し訳が立たないと思ったからです。普通一般の同窓会では、立候補者の意思や顔などは表面に出ないまま、何となく選考委員会で決められるというのが通例のようです。しかしこれでは何の特色も意思もない旧態然たる同窓会になってしまいます。常に『活力』を失わない、『独創性』溢れる、そして『マン

ネリズム』という毒素に汚染されない組織を作るためには、その具体的な方法を論ずるにあたり、この『PLAYERである』という概念をそのための根底に据えるべきだと考えます。そして一卒業生である私としては、この思想が『烏帽子会の伝統』として定着してくれることを切に望むものであります。

結果の責任が『集団』で分散されて、そして『誰も責任はとらなかった』という結末が常に出る様な組織ではなく、『個人』に責任が明確になる組織にしなければならぬと考えています。そして会長として委任して貰った『会長権限』を、実際に行使することが会長の『義務』だと思っております。同窓会で熟考の上作られた『権限』や『規則』であっても、それが実際に行使されなければ単なる絵に描いた餅になってしまいます。会長として与えられた権限を、それを真に必要と判断したとき、断固として『決断』し、『勇気と覚悟』を以て実行すべきであり、ためらって実行しないことは厳しい言い方かも知れませんが、責任者としての『犯罪』に等しい事ではないかと考えます。

そして、この『会長の権限施行結果』に対しての『絶対的評価権』を持っているのは評議員会に於ける評議員の方々です。そしてその評議員を選出するのは全ての会員の皆さんです。従ってこの同窓会は烏帽子会の会員全体で運営されるシステムになっています。そこで全会員諸子に小生の心からのお願いがあります。それは『無関心という暴力』だけは絶対に振るわないで欲しいという事です。会員全員がこの同窓会に関心を持ち、一体となってこの会を育み発展させて行こうではありませんか。必ず良いことがあります。

最後になりましたが、今期の四つの主目標を提言させて頂きます。

1. 学生、大学への強力な協力、提言(特に国家試験対策関係)
2. 最新の同窓会、大学での情報伝達方法の整備
3. 医学部入試改革
4. 研究助成の充実

特に1に関して母校は危機的状況にあります。今期も全力を尽くして頑張りますので、皆様のご協力と評価をお願い申し上げます。

以上をもちまして今期の会長就任のご挨拶に代えさせて頂きます。

第19回烏帽子会総会

第19回烏帽子会総会ならびに討論会を振り返って

ーテーマ；『21世紀の福岡大学医学部・病院を考える』

誇り高き医学部・病院を目指して、同窓会になにができるか？ー

婦人科詠田由美クリニック院長 詠田 由美 (3回生)
形成外科助教授・部長 大慈 弥裕 之 (3回生)



I. 総会報告

本年度19回烏帽子会総会ならびに朔啓二郎主任教授就任祝いを無事盛会に終了することができましたこと、ひとえに同窓会会員皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。



今回は特に、朔啓二郎教授が卒業生の栄えある第1号母校主任教授として就任され、このように盛大に総会が終了したのは、朔教授への同窓

会からの一方ならぬ期待と喜びによるものと思われまます。3回生にとっては最初で最後の総会実行当番幹事学年で、このような名誉ある仕事ことができましたこと心より感謝申し上げます。

1999年7月に突然同窓会総会当番学年の実行委員長の任をいただき、何もわからないまま、準備委員会の設立となりました。昨年当番幹事学年であった2回生と12回生、特に吉田隆先生、江下明彦先生のご指導の元、前年に習って総会の準備を開始しました。

総会当日は、九州沖縄サミットの交通規制の中、200名以上の出席をいただきました。同窓会会員のみならず、恩師の先生方、医学部学生さんも多数御出席いただき、さらに何よりも山下福岡大学学長に総会ならびに祝賀会にご臨席賜りましたこと、当番幹事にとっては感慨深い

思い出となりました。あらためて、福岡大学の中の医学部であり、総合大学の医学部の担う責任を問い直す機会を得ました。

II. 討論会報告

テーマ；『21世紀の福岡大学医学部・病院を考える』誇り高き医学部・病院を目指して、同窓会になにができるか？

1. 討論会に至るまで

1回生から数回の学年までは開設時の混乱期に卒業し、医師になることを夢見て勉学に励んでいました。教授陣も若く血気盛んに教育してくださったことを思い出します。福岡大学医学部も開設から四半世紀、新設医大と言われる時期を過ぎ去ろうとしています。3回生は20年の月日が流れ、同期生の進路も大学学内関係者、勤務医、開業医と多岐にわたり、卒業大学への思いは皆一様に強いものの、その思いと大学開設当時に経験した新鮮な新設医大の姿を後輩へ



討論会

どのようにして伝えていくか、3回生それぞれの立場から多くの意見がでました。時には、話し合いは決裂し、土曜日の夕刻より食事もとらずに話し合いの席に臨みました。

討論会の準備段階でまずテーマの最大のポイントは医学部における同窓会の役割とは何かということでした。同窓会は、親子でも夫婦でもない。しかしながら、同じ福岡大学医学部卒業という深い絆があり、横の連携により高度な医療に取り組む組織であると考えられます。また、卒業生は運命共同体です。好き嫌い、善し悪しにかかわらず福岡大卒として束ねられ、風評やイメージにより個人の實力以外の部分で評価を受けることがあり、同窓会としても卒業生個々の質を高めるための理想的な教育体制について、福大医学部、病院の動向を無視したり、客観視することはできない状況があります。この数年間の医師国家試験の成績は同じ福岡大学医学部同窓生として胸を張って報告できるものではないことは事実です。それは国家試験に臨む学生さんだけの問題ではなく、福岡大学医学部同窓会全体の課題であることを、卒業生だけではなく学生各氏にも認識してもらいたい。また、同窓会としてその問題にいかに関与できるのかを検討したいとの意見がでました。

さらに、創設25年が過ぎ、同窓会組織の指導的役割を担う福岡大学医学部主任教授に卒業生の中からの選出を期待できる時期になりましたが、準備委員会の話し合いの段階では、未だ卒業生の母校主任教授は存在しない状況でした。これに対して、同窓会としては強い期待があることを母校に主張することが、同窓会の役割のひとつであるとの意見もありました。今回、朔教授の主任教授就任で若い卒業生の研究者に新たな目標を与えたと思います。朔教授に続く研究者が若い卒業生から次々に巣立ってほしいというのも同窓会の希望です。

これらを基本コンセプトに討論会のテーマ検

討が始まりました。そのような過程の元にまとまった総会講演演題が今回の『21世紀の福岡大学医学部・病院を考える』誇り高き医学部・病院を目指して、同窓会になにができるか?です。テーマに引き続きその内容の決定、パネリストの推薦そして進行についてと数回の話し合いを行ってきました。基本コンセプトから草創期の医学部を経験した恩師の先生、同窓生に参加していただくこと、現在の医学部で教鞭を取られる先生、ならびに教育を受ける学生さんにも参加していただくことなど、具体的な形式を決定しました。さらに、討論会実行委員を選定し、テーマに沿った討論会の内容の詳細決定を行いました。

2. 討論会報告

今回、初めての試みのため、内容の絞込みをどこまで行うか重要な課題でしたが、卒業生にも、在校生にも共通した内容での討議ということで、卒前教育、卒後教育の2つの論点に分けて討論会を進めるように決定しました。事前に討論会実行委員が準備した3回生、13回生へのアンケート(表1)結果に沿って自分たちが経験した卒前卒後教育のメリット・デメリットをまず公開し、討議を開始しました。参加いただいたパネリストの方々を表2に、討論会内容を表3に示します。



フロアからの学生の発言

卒前教育のアンケート結果では、3回生13回生共に卒前教育には満足を示す結果でしたが、特に3回生では教授陣の意欲的な授業を解答にあげる割合が高く、草創期の福岡大学の活気を覗う結果が得られました。フロアからの卒業生の意見として、過去は進級判定が厳しかったことが挙げられました。逆に現在の進級判定は甘すぎるという指摘を受け、その結果国家試験合格率低下の要因になっているのではとの声が上がりました。医学部長も経験された菊池副学長より、本医学部卒後の医師としての姿勢は好評価に値するものがあり、国家試験の合格率より、卒業生個々の進路を考えた上では、留年をできる限りなくす方針にしたとの報告を受け、改めて恩師の苦悩や愛情の一部分に触れることができました。医学部28年の歴史の中で、進級判定が厳格な時期、緩慢な時期の2つの大きな流れを見て今後どちらの方向性に進むべきか再検討を要すると考えられます。国家試験対策に関しては模擬試験の再検討案が上がり、池原学部長、小野教務主任より今後の課題との発言をいただきました。

卒後教育は高学年の学生や卒業生の関心の高い部分で、魅力ある卒後教育の実施が、学生諸子の国家試験への意欲を高める対策のひとつと考えられます。アンケート結果では筑紫病院での卒後臨床教育に対する貢献度は高く、評価す

べきであると感じられました。福岡大学病院は3回生のころより13回生の方が不満度が高くなっており、研修病院としての魅力が減少していると感じる卒業生が増えていました。その理由の詳細は、明らかではありませんが、アンケートやフロアからの意見などを総合すれば、研修に専念できないこと（生活の問題、仕事量の割に地位が低い）、病院や大学が全体として教育しようという意欲が伝わっていないこと、筑紫病院以外に有力な出張病院が確保できないこと、大学病院自体が社会の要請や時代の変化に対応できていないことなどが上げられます。他大学での卒後研修での満足度が高いことより、他大学での研修プログラムを検証し、私立大学としてのメリットを生かした独自の魅力ある卒後研修カリキュラムの作成が、医学部ならびに同窓会の急務の検討課題と考えられます。国家試験のみを目標とした卒前教育ではなく、充実した卒後研修を習得することを目標にした医学部卒前教育を実施し、優秀な学生、研修医、医員の人材育成が、21世紀の福岡大学医学部ならびに病院の発展基盤になると考えられます。

パネリストの率直な意見交換、フロアからの活発な討論参加をいただき、予想以上に内容の濃い討論会となりました。山下学長にも本討論会に参加いただき、卒業生が考える医学部の問題点について福岡大学学長の立場で聞いていた



懇親会1



懇親会2

だきました。医学部の課題は福岡大学全体の問題として検討する必要があると考えられます。山下学長からの追加発言として、卒後教育に関する問題点をまず可能な範囲で改善することを指摘されました。また、医学部卒業生が医学部教育の中心的役割を演じる時期に来ていることも指摘され、工学部の歴史の中で見られたように、卒業生の多くが教育スタッフとして参加することにより、新たな医学部の発展の時代が生まれるとのお言葉をいただきました。

III. おわりに

今回の討論会では十分な結論は得られませんでした。しかしながら、討論会を行ったことには意義はあったと思います。創設28年、このような公開討論の場はありませんでしたが、多数の同窓生が母校を考えていることを実感した討論会でした。これを期に、また多くの方が参加して母校を考える機会が得られますことを願います。

卒業が20年、日々の診療に追われ、なかなか同期で会することができませんでしたが、今回

の準備で連絡網も整備され、同期会の予定もあり、新たな同期の歩みが始まった感があります。

1回生、2回生の背中を見ながら、3回生と13回生で作り上げた烏帽子会総会が、また次の同窓に引き継がれ、より良い発展を遂げることを心より願います。

最後に、1年間烏帽子会総会準備委員として協力いただきました3回生、13回生に深謝いたします。



懇親会3

表1. 卒前卒後教育に関するアンケート

質問1. あなたが受けた福岡大学での医学部卒前教育について

答：満足、不満、どちらでもない

質問2. 満足、不満の理由は何ですか。(複数回答可能)

答： 1.進級が厳しかった。 2.教授の熱意が伝わった。 3.施設が優れていた。 4.同級生に恵まれた。
5.その他；

質問3. 福岡大学での医学卒前教育に望むことがあれば、お述べてください。

質問4. あなたの卒後臨床研修(認定医を取得するまでの期間)を受けた施設(母体となる医局)は福大病院ですか、あるいは他の施設ですか。

答： 福大病院、他の大学、病院名； ()

質問5. あなたの所属した施設(病院、大学)の卒後教育体制(教育カリキュラムの充実度；例、レクチャー、習得すべき知識や技術の段階的アップ)には、満足しましたか。

答：満足、不満、どちらでもない

質問6. 満足、不満足の原因は何ですか。

質問7. 最後に、福岡大学病院の卒後臨床研修の問題点について、ご意見があるようでしたらお述べてください。

表2、討論会テーマとパネラー

テ　　マ	21世紀の福岡大学医学部、病院を考える —誇り高き医学部、病院を目指して、同窓会に何ができるか—
司　　会	松本直樹（3回生）
特　別　発　言	山下福岡大学学長
パ　ネ　ラ　ー	菊池副学長、池原医学部長、有吉福岡大学病院長、八尾筑紫病院長、 小野教務主任
パ　ネ　ラ　ー	高木同窓会長（1回生；開業）、田中幹夫（3回生；開業）、 大慈弥裕之（3回生；福岡大学医学部助教授）、 立川裕（13回生；福岡大学病院助手）、重森裕（医学部学生、6年生）

表3、討論会内容詳細

卒業生に対するアンケート調査の結果報告

3回生、13回生の意識の比較

卒前教育

1. 福岡大学医学部設立後26年間の成果
2. 医学部設立の基本理念総括；池原先生
3. 現在の医学教育カリキュラム報告；小野先生
4. パネラー発言
5. 問題点討議
医師国家試験合格率低迷
学生の医師としての自覚や意欲について。
基礎と臨床、講座、診療科、卒業生同士の
信頼感の欠如。
大学本部と医学部間のコミュニケーション
不足
6. フロア討議
7. 卒前教育への同窓会から支援の是非；
高木同窓会長



司会：松本直樹

卒後教育

1. 福岡大学病院卒後教育総括；有吉病院長
2. 筑紫病院卒後教育総括；八尾病院長
3. パネラー発言
4. 問題点討議
閉鎖的な医局の体制
科ごとの卒後研修体制のばらつき。
大学病院としての診療体制の不備。
関連病院の不足
福大病院入局希望者の減少。

特別発言

山下福岡大学学長



特別発言：山下学長



パネラー：左



パネラー：右

討論会を終えて

松本病院院長 松本直樹（理事・3回生）



私は同窓会の執行部にいる関係上今まで多くの同窓生の方々と語り明かしてきましたが、大変困った意見にぶつかることがあるのです。特に若い世代や大学に長く在籍した人達に多いの

ですが、こういう意見です。

- 1) 大学の運営方針、自営に関する事は、大学にまかせるべきである。

同窓会とは関係ない意見を言うのはおこがましい。

- 2) 是非とも同窓生の中から主任教授が出る必要はないし、なったからといって特別な応援をする必要もない。

（えこひいきは良くないという意味か？）

- 3) ましてや、同窓生の子弟が今医学部受験に直面して苦労しているからといって、執行部がいちいち世話をやこうとする必要はない。

（こんなことは論外である）

これらの意見は客観的には正論かもしれません。ただし、何とも寒々しい印象をもつのは私だけでしょうか。

世の中には「知的正論」という主張があります。例えば「人類は戦争を放棄すべきである」というまさに正論があります。今も昔も人々はこの正論を願ってやまなかったはずなのですが、現実には繰り返し繰り返し戦争や紛争を行ない続けているのが人類の歴史そのものなのではないでしょうか。正論は時として空しい理想論に終わります。それはなぜかと考えますと、人間の日常生活なんていうものは知性とか理性とかが中心になって動いているのではなく、感性が主体をなして営まれているのではないかと。即ち、感性とはその人が好きだか

ら、嫌いだから、知人だから、知らない人だから、義理や貸し借りがあるから、憎んでいる、妬んでいる、愛している。究極には動物本能、欲望、血縁などによって人間同士が強く結び付き社会生活が成り立っている。それではあんまりなので、道徳心、倫理観という理性を思想、哲学、宗教などから生み出し、憲法、法律など権力という形の知性によって、どうにか感性の世界を抑制制御しているのではないのでしょうか。それが実社会であるとするならば、先程の知性的正論、大学、医学部、病院というものが神聖なものであって象牙の塔として実在できるのでしょうか。（象牙の塔とは辞書によると実社会とは隔絶し知性と教養のみを追い求め隠遁生活をおくれるユートピア）そんなものは有り得ない。むしろ大きな人間社会の小さな縮図に過ぎないのではないのでしょうか。確かに恩師、教授陣は、知性と教養に満ちあふれ、高い見識をお持ちの方がほとんどです。しかし、実社会そのものである学部、病院の運営には常に悩み苦しみを続けておられる。そして今先生方が苦しい胸のうちを吐露され、いわば愛する母校が同窓会に救いを求めている時に「それは大学内部の問題でしょ！」と正論のみで片づけて良いものではないのでしょうか。私は違うと思います。我々同窓会はその豊かな感性でもってお答えしなければならない。その感性とは即ち、母校を許し、母校を信じ、母校を誇り、母校を愛することを原点とし、出発点として、今我々が母校に何が出来るのかを考え、行動し始める時が来たのではないかと最近つくづく思う次第であります。

第19回烏帽子会総会担当事務報告

総会事務局 宇都宮 英 綱（放射線科・3回生）
崎 村 桂 子（さきむら医院・3回生）
春 野 政 虎（千早病院・13回生）

本年度の第19回烏帽子会総会は、平成12年7月8日（土）西鉄グランドホテルに於いて、総出席者215名という今までにない大盛況の内に、無事終了することができました。皆様の御協力に心より感謝いたします。誠に有り難うございました。

烏帽子会総会が学年担当制になり、今回で3年目になりました。第17・18回とお手本はありましたが、この様な大きな会をいかに組み立てていくか大きな重圧の中、20（10）年ぶりに久しく会うメンバーは、みんな学生の頃と変わらず（容姿はいく分変わってはありましたが）、熱い討論が夜遅くまで続きました。

第18回烏帽子会総会を担当された2・12回生の幹事の方々から、昨年の詳細な資料を頂き、それに基づいて準備を始めました。この詳細で完璧な資料と、準備のために昨年幹事より頂いた20万円により、本当にスムーズに準備を整えることができたことに感謝しております。

また、2000年という節目の年を迎えての第19回烏帽子会総会で、同窓会として福岡大学医学部及び病院に、どの様に貢献できるかを考える講演会にしたいという熱き思いが、今回の公開討論会の実現となりました。結果としては大好評を頂きましたが、準備の段階では様々な問題提起がありました。

以下に私たちが今回の総会に向けて準備したこと、及び結果をご報告いたします。

1. 組織 会長1名、副会長3名（3回生2名、13回生1名）
渉外3名（3回生2名、13回生1名）
会計8名（3回生7名、13回生1名）
委員若干名、監事2名（3回生1名、13回生1名）
事務局3名（3回生2名、13回生1名）

以上、福岡市在住または福岡市近郊の方にお願ひしました。

2. 経過

平成11年9月4日（土）

- 第1回準備委員会・於「詠田由美クリニック待合室」
総会の日時の決定・全体の見積もり及び寄付の内容の検討

平成11年10月2日（土）

- 第2回準備委員会・於「詠田由美クリニック待合室」
会場の決定・予算の組み方・幹事人事の決定
講演会及び懇親会のあり方についての討論

平成11年11月6日（土）

- 第3回準備委員会・於「詠田由美クリニック待合室」
講演会（討論会）のテーマ及びパネリストの検討
パネリストの依頼書及び趣意書の作成について

平成12年1月15日（土）

- 「第19回烏帽子会総会を成功させる会」幹事総会
幹事全員の顔合わせ 於「稚加栄」
経過報告（日時・予算案・募金・講演会内容等について）

平成12年2月13日（日）

- 第4回準備委員会・於「詠田由美クリニック待合室」
講演会の細かい内容についての検討・パネリストの選出
講演会実行委員及び懇親会実行委員の選出

平成12年5月20日（土）

- 第5回準備委員会・於「詠田由美クリニック待合室」
趣意書・寄付のお願い・アンケートの発送終了（5月中旬）
懇親会＝第2回内科主任教授就任祝賀会となる
寄付金の入金の確認→未納者へ連絡

平成12年6月10日（土）

- 第6回準備委員会・於「詠田由美クリニック待合室」
会計報告・懇親会の式次第検討・アンケート集計報告
講演会のシナリオ作成検討

平成12年7月1日（土）

- 第7回準備委員会・於「詠田由美クリニック待合室」
当日の詳細の検討（会場のレイアウト・お礼/お車代の金額検討・受付の人事・役割分担・アルコールの持ち込みやワインの手配等々）

平成12年7月8日（土）

- 「第19回烏帽子会総会」・於西鉄グランドホテル

3. 結果

参加人数 (215名)

1回生 22名	7回生 8名	13回生 24名
2回生 13名	8回生 2名	14回生 1名
3回生 49名	9回生 3名	15回生 1名
4回生 18名	10回生 0名	16回生 2名
5回生 9名	11回生 4名	17回生 1名
6回生 5名	12回生 5名	
20・22・23回生	各1名	

学生 33名

特別会員 14名

収入 (4,580,000円)

3回生寄付	250万5千円 (80名)
13回生寄付	84万5千円 (46名)
2・12回生より	20万円 (準備金として)
総会当日会費	103万円
(卒業生95名+パネラー以外の特別会員8名)	

支出 (2,477,034円)

講演会演者お車代 (6人分)	12万円
総会会場費	198万5千296円
ポスター印刷費	1万9千162円
宴会余興 (野芥太鼓) お礼	10万円
ワイン代金	3万6千630円
2次会不足金	4万2千810円
事務通信費	7万 136円
会議費	10万3千円

残金 (2,102,966円)

第20回烏帽子会総会担当回生 (4・14回生)へ

20万円

13回生同窓会へ

50万円

3回生同窓会へ

140万2千966円

残金に関しては昨年同様、純粋に3回生と13回生からのみ集めたお金であるため、次期総会の準備金に20万円を寄付し、その残りを寄付金の比率で分配し上記のように決定しました。なお、3回生はこの資金で卒業20周年の学年会を開催する予定です。13回生に関

しては使途は今後決定すると思われますが、10年後の総会の準備に役立てばと願っています。

4. 反省会での討論から

- ・第18回総会準備委員会 (2・12回生担当) より、昨年度の準備に関する詳細な資料と20万円という多額の準備金を頂き、非常に役立った。
- ・資金面は昨年同様寄付金に頼った。やや強引ではありましたが、総会会費を含む寄付金を徴収したため、出席者も多く金額もたくさん集まったと思われる。
- ・講演会を公開討論会とし、医学教育というみんなが非常に興味を持つテーマ取り上げたことが、多くの出席者に結びついたと思われる。この討論会の現に向けては、担当幹事の言い尽くせないほどの努力の賜と思っている。
- ・講演会準備委員・懇親会準備委員などの小委員会を作り、細かく打ち合わせの時間が持てたことが良かった。
- ・準備委員会の通信手段として、E-mailが非常に有効だった。

以上、3・13回生担当の第19回烏帽子会総会準備委員会事務局より、本年度の業務及び総会の結果をご報告いたしました。同窓生の皆様の御協力に心より感謝いたします。本当に有り難うございました。

また、ご多忙中何度も準備委員会に出席し、総会の成功に向けて熱き思いを語り実現させて下さいました担当の幹事の皆様にも重ねてお礼申し上げます。

今後総会を担当される卒業生の皆様、同窓会の意義について十分に考え、魅力ある総会を作っていって下さい。

最後になりましたが、この同窓会総会に関わった皆様に再度心より御礼申し上げます。

「本当に有り難うございました」



11-1 評議会議事録

- ◆日時 平成11年5月27日(土) 16時
◆場所 福岡国際ホール
◆出席者 評議員55名中、実出席31名
委任出席14名、欠席10名
支部長17名中 出席9名(うち評議員再掲6名) 欠席8名

◆経過報告

別紙により高木会長報告。更に会長は次の点を付加した。

- ① 昨年7月、1回生の林英之君が眼科の主任外教授に、同じく12月には朔啓二郎君が五つに改編された内科の内科第二の主任教授に選任された。

また3回生の浦田秀則君が琉球大学内科の教授選の最終選考に残っている。

- ② 新会費制度は各支部のご協力のおかげで順調にスタートした。お礼を申し上げたい。
③ 国試成績の低迷には困惑している。これからは大学の教育に積極的に協力して行かなければならないと思う。大学から見ても同窓会が頼りになる団体であると思われるような存在でありたい。

◆議事

1. 平成11年度収入支出決算見込と予備費の流用について

松本理事から資料3により次のような決算見込みを説明、さらに予備費の流用について提案され承認された。

新会費実施に伴い、学年会費を負担して戴くご父兄にも、同窓会の活動を知って貰うために春の会報をお送りした。そのためその分の経費が増えた。更に教授選活動の為にその経費が予算を約200万円超過した。このため予備費の内200万円を雑費に流用したい。

さらに会長、重田副会長から具体的な活動の状況の説明があり、また他人から指弾されるような

活動は一切していないという説明もあった。

2. 平成12年度事業計画案

穴井理事から提案理由の説明があり原案通り可決された。

重田副会長より久留米大学の研究助成の金額は約1千万円にも及び、福大の10倍規模であるとの説明が付加された。

3. 平成12年度収入支出予算案

松本理事から提案理由の説明があり原案通り可決された。

昨年と特に違うところは給与に半人分の人件費を加えたこと、雑費に会長渉外費の名称で100万円を計上したことなどである。これは今後子弟の入試や国試対策等、大学や学部との交渉が増えると思われるための予算である旨の説明があった。

4. 第10期会長の選出について

現会長から立候補の表明があり、全会一致で次期会長に推薦された。

新会長の言：自ら立候補して選ばれたからには全責任をもってやりたい。同窓会の存在意義を考えると頑張り甲斐がある。特に国家試験に全力を結集しなければならぬ。今回の浦田君の教授選を考えると、他大学でその席を争う場合には母校の力が大いに影響する。その為に国試成績が良いと言う事は大きな後押しとなる。またそうである事は我々の自己責任でもある。この度、朔教授が国試対策の責任者に指名され既に賽は投げられた。80%以上の合格を目指す。大学任せではなく我々もやらねばならぬ。母校の成績が良いという事は自分の為でもあり世間にも胸が張れる。

5. 決算評議員会を総会と合同実施することについて

従来は総会当日、総会前に決算のための評議員会を実施していたが、総会が当番制になってか

ら時間的に総会の開催が困難となり、やむを得ず単独評議員会を省略して総会と合同実施している。総会前に評議員会を設定する方法もあるが、殆ど決算だけの評議員会の為にかなりの経費を要することになるので、今回も昨年の方法を踏襲したいという提案があり了承された。

6. 同窓会費徴収状況と今後の対策

〔松本理事〕新会費を実施するにあたり、本部自体が試行錯誤の中、面倒な事を支部長さんをお願いして大変ご迷惑をお掛けしかしました。お陰様で順調な滑り出しをすることが出来、これも支部長各位の好意あるご尽力の賜だと感謝しております。有り難うございました。つきましては集め方で苦労されたこと、その他何でも結構ですのでご意見を含めて各支部からのお言葉を戴きたいと思います。

〔福岡：権藤支部長代理〕7地区に分け、それぞれに責任者をおいて徴収業務をおこなった。全般にかなりの成績を上げたが一部には連絡が徹底されていない区があった。

〔北九州：坂本支部長〕北九州支部のクレジットカードを作成してこれに加入して自動引落し方式をとった。かなりの成果はあったが方式の周知方法に問題があり万全とは言えない。今後は100%徴収を目指したい。

〔嘉飯山：馬郡支部長〕医師会の診療報酬から、研究会費の名目で引き落として貰っているので徴収に苦労はない。飯塚病院のB会員の移動が激しい。しかし将来故郷に帰ってくるB会員も多いので、B会員についても責任を持って対応して行きたいと思っている。

〔筑後：浅倉評議員〕8地区に分けそれぞれ担当者をおいて徴収している。88.5%という数字が出ているが100%の徴収が可能である。未徴収の4名は最近開業の方である。今後の徴収方法の問題として、振込用紙を本部から支部に送って貰う方法や医師会の引落方法などを研究したい。

〔筑紫：権藤支部長〕支部の勘違いでB会員を含めて請求している。50%と言うのはB会員を含めた数字である。A会員の中に退会を希望する人も居る状況なので100%徴収は無理である。頑張っ

て集める。〔佐賀：福岡支部長〕集金が遅れているが30名ほど集まっている。すぐ送金する。

〔長崎〕欠席

〔重田副会長〕長崎は支部組織が消滅しているので早急に立て直しを図りたい。

〔佐世保：久保評議員〕人数が少ないので直ぐ集まる。B会員の納入状況も良いので嬉しい。いま学生、いま研修医も多いので将来を見据えて頑張っていく。

〔熊本〕欠席

〔重田副会長〕先日の熊本支部総会に出席し聞いた所によると、支部長が納入方法を間違えていたようである。納入率も今ひとつ、もう少し動いて欲しい。

〔大分：鬼木支部長〕集金が遅れたので、慌てて銀行口座を作って振り込んで貰った。苦情を言う人も居たが最後は全員直接本部に振り込んだようである。今後は郵便局の振込を利用したい。B会員も50%納入しているが未納者をチェックしてみたい。B会員の名簿をお願いしたい。

〔宮崎：野田支部長〕請求して特に督促はしていないが、大体支部総会に集まる人が納めてくれている。あとの電話連絡が大事だと思う。将来はグループ毎にチーフを置いたら良いと思う。本部から領収証を出して貰えないか。研究して欲しい。B会員の名簿も欲しい。

〔鹿児島：山下支部長〕3月に総会を開いて話をしたが纏まらなかった。A会員とB会員とどうして集め方が違うのかという意見が強かった。鹿児島となると医療圏が違うのでかなり温度差があり難しい。今年は個人で直接本部に納入する方法を採ったが結果は良くないようだ。研究する。

〔沖縄：野原支部長〕集金方法を勘違いしていた。支部会費も集めていない状況なので今後会計組織を強化する。しかし50%は無理ではないかと思う。

〔広島〕欠席

〔関西〕欠席

〔松本理事〕好意的に捉えて貰って苦労して戴いた事に感謝する。集金方法については初めての事なので執行部の研究も不備があった。しかし収入がかなり増えたお陰で研究奨励費の額も増加し、少しは会員の力になることも出来た。今後は地域の特殊性も考え、場合によっては支部組織が確立するまで本部徴

収もやむを得ないであろう。成熟するにつれて支部徴収に移行していきたい。

【筑紫：権藤】支部で払わない人については、支部から本部宛名前を連絡し、本部から徴収して貰うようにせざるを得ないだろう。

【重田副会長】同窓会としての考え方は、支部主体に運営していくことが本論で、その意味で本部会費の徴収を支部にお願いした。いろいろ難しいこともあるが、ここ3年はこのままやって行きたい。払わない人をどうするかは2、3年の様子を見て考えたい。勘違いされている支部長には再度趣旨を徹底させる。この事を利用して支部会を盛り上げるのが一つの目的である。

【福岡：山崎】1年目は良かったが、心配なのは2年目3年目に同じ協力が得られるかと云うことだ。年1万円という事をきちんとフィードバックして、会員全般に対してアピールを考えることが必要だ。

【重田】具体的に徴収のテクニックについて云うと、北九州支部の場合はクレジットカードによる自動引落し方式である。医師会による自動引落しが出来れば請求の必要がないので尚良い。久留米大学は医師会引落方式をとっている。

【大分：鬼木】カードの場合、医師会の場合、どちらも引落し金額に対する領収書はあるのか。

【嘉飯山：馬郡】事務員が研究会費の名目で発行してくれている。雇われ院長の場合は個人の了解が必要。

【鬼木】その領収証は経費処理が出来るのか。

【野田】カード方式はどうすれば出来るか。教えて欲しい。

【重田】50人以上の加入者があれば作ってくれる。北九州支部の場合は烏帽子会北九州支部の名前で作っている。その方法を北九州支部から紹介してもよい。デパートでも使える。中にはカードが嫌いで作らない人もいるが、そういう人はかえってきちんと納める。カードの利用が多いとそれなりに支部に対してキックバックがある。

（希望支部）佐賀、大分、佐世保、筑後、宮崎

【松本】カードの場合、それは個人の金から引き落とされる事を承知して欲しい。

【野田】支部では領収証の発行が出来ないので、本部から領収証を発行して欲しい。重複納入の人の名前

も教えて欲しい。

【池田事務局長】重複納入者については、重複分を次年度の前払い分として処理している。返却を希望される場合は返却してもよい。重複した方については名前と処理方法を既に支部長に連絡済みである。領収証については銀行も郵便局も受領証が発行されるので、社会通念としてそれを領収証と考えて欲しい。現金の場合は支部から領収証を発行して欲しいが、方法について更に研究してみる。

【重田】いろんな問題が出てきたので理事会で検討する。

【筑紫：権藤】会費を払う人は払う、払わない人は払わない。支部長としてはその両者に対し、入試のことでも受ける恩恵についてメリットとデメリットを使い分けるべきではないか。

【重田】理事会としては差をつけることで考えて行きたい。久留米大ではその時になって10年分の会費を纏めて払う人も居るとか、その為にも支払いの実績を常に確実に掌握しておく必要がある。

【高木】何でもこんな面倒なことを支部にやらせるのかという感想をお持ちの方もあると思う。それについて一言。支部で会費を徴収するためにはそれが出来るちゃんとした組織が無くてはならぬ。そこに自然と支部の存在意識と同窓会費についての意識が生まれてくる。私はこの烏帽子会は中央集権の団体ではなく、支部の動きを重視する団体でありたいと思う。支部の活動を通じて会員間のコミュニケーションを、支部と支部とが色々な問題を話し合うことにより支部間のコミュニケーションを深めるきっかけを作って欲しい。何時どこを切ってもいい組織が出来ているそういう団体でありたい。失敗したり成功したり、お互いに連絡しあいながら組織を充実することに一肌脱いで欲しい。

【笠理事から連絡事項】今年も医学祭に広告という名目で、学生が寄付をお願いすると思う。関西支部では学生の休みの時期に学生と一緒に支部会（上方会）を開いているような事を聞いたが、もし他の支部でもそのようなご計画があれば、学生を極力出席させたいので自分か事務局に連絡して欲しい。

【重田】学生時代から出来るだけ支部に引き込んで戴きたい。

〔林副会長から国試の事など〕

- ・全国平均で合格率が5%位落ちている。これは文部省が合格者数を意識的に絞った結果である。従来の合格者7,500が今年は7,050に減った。しかし国立はあまり落ちていない。私大新設が酷い。
- ・そのため医局入局者が減った。それで旧帝大が門戸を開いて他大学から人をかき集めた。そのため私大では医局の維持が困難になりつつある。福大でも今年は5つの内科に入局者9名、外科も両外科に1名ずつしかいない。
- ・国試合格率が70%を切ったら国からの補助金がカットされる。その額は福大で4千万円、久留米大は3億円に及ぶ。これで最も打撃を被るのは基礎講座だ。
- ・国試の成績を向上させるためには4、5学年の教育をしっかりとする必要がある。今まではこの教育が良くなかったという事だ。それではこの教育に本腰を入れる為にはどうすればよいか。学内同窓生の力に頼るしかないというのが学内コンセンサスだ。
- ・そこで朔教授に特命が下った。悪く言えば押しつけた。教育を改革し目的を達成するには、どうしても本学卒業者の内部昇格が喫緊の事項となる。責任は重い。同窓生の力の結集が必要だ。
- ・子弟の入学についての配慮については、大学は建前上は無理だと言う。しかし技術的には出来る。それでもやる気はない。無理をしてやっても自分に何のメリットも無いからだ。

〔重田〕国試の成績を心から心配するのは同窓生だけだ。その意味で押しつけられたとも言える。しかし我々しかやるものはいない。大学にいる人に頑張って貰い、外にいる者はお金を出すことによって後押ししたい。

〔朔理事〕皆さんのお陰で4月1日内科第二の主任教授になることが出来た。そして国試の担当を任された。今年から出題数が350題から500題に増える。時間は今までと同じだ。これをこなすためにはかなり問題に慣れていなければならぬ。そのためには勉強が必要だ。問題の中に禁忌肢と必修問題がある。禁忌肢は間違ったら落ちる。必修は8割以上採らねばならぬ。

先日、学生からアンケートをとったら、国試の補講について「押しつけ講義は聞きたくない」とか、ボランティアで補講をしてくれる先生について「出てこない人の給料を下げろ」など乱暴な事を書いた学生がいた。手が震えるほど怒った。そしてつくづく学生教育が必要だと思った。何はともあれ同窓会の支援をお願いしたい。

〔福岡〕国試の合格率の向上については同窓生が一番熱意がある。国試のことは学内の同窓生にお願いするとしても、母校に残る人の少ない事が問題だ。外部の同窓生としても地域出身の学生と接触を持って協力したいので、学生の名前を教えて欲しい。更に本部でも毎年学生と接触を持てるようなきっかけを考えて欲しい。

〔重田〕考えて見ると今まで学生との接触が確かに少なかった。反省すべき事だ。

〔松本〕人には理性と教養の人があり又感性の人がある。理性の人は同窓会が医学部のことに関与する必要は無いという。しかし感性で動かねばならない時もある。同窓生の子弟を可愛がればそれに応えて医局に残る人が出るかも知れない。医学部が危急の時に同窓会は母校のために何が出来るかを考えよう。

〔筑紫：権藤〕大学の各医局で、卒業生が上に居てその下を後輩がローテイトする。やはり後輩は可愛い、先輩は親身に面倒を見る。他学から来た人はそうは行かない。支部でも先輩後輩の関係を作り上げるために、学生時代から何かにつけて常に学生と接触することを心掛けるべきだ。

〔林〕大変嬉しい事を言っていたいただいた。先輩は後輩に一生懸命何かをしてやろうとしている。その気持ちを後輩に知って欲しいと思うが、教育職員であると色々制約があって思うに任せぬ事もある。だから各支部ではいろんな機会を捉えて学生と接触の機会を作り、この事を体で教え込んで欲しい。遠い支部こそ学生との接触を考えることが必要だ。大学で後輩に接するとき何かが違うはずだ。

教授就任挨拶

『志高 清 遠』

山口大学医学部生体防御機能学 教授 宮 本 康 嗣（6 回生）



〔宮本 康嗣（生体防御機能学）〕

- S45.3 九州大学理学部卒
- S58.3 福岡大学医学部卒
- S58.4 福岡大学病院臨床研修医（内科第一）
- S60.4 福岡大学医学部薬理学教室 助手
- H 1.7 ニューヨーク・コロンビア大学附属セント・ルークス・ルーズベルト病院リウマチ学研究室研究員（～H3.6）
- H 3.7 福岡大学医学部薬理学教室 助手
- H 5.4 福岡大学病院内科第一兼務（東洋医学外来） 助教授（生体防御機能学）
- H 8.8 山口大学医学部助教授（生体防御機能学）
- H 8.9 山口大学病院漢方外来兼務
- H12.8 山口大学医学部教授（生体防御機能学）

『志高 清 遠』という言葉は最近衛星放送で再放送があった『大地の子』のドラマの中で、主人公の父親の部屋に飾られた書の中にあったものですが、私自身大切にしたい言葉であるし、多くの人に捧げたい言葉でもあります。

私は就職先の研究所で初めて『漢方』を知り、漢方の臨床までやりたいと思うようになり、しかし臨床に携わるには医師の資格が必要、と漢方の臨床医を志して会社を辞め医学部に再入学したのが20代の終わり頃、それから四半世紀が経ち、いまやっと少しだけ地平が開けた気がします。

私が志を立てた1970年代は、医療のあり方が大学紛争の火種となりそして大学紛争は終熄した後、自然破壊や医薬品公害が今ほどではなくても大きな問題となり始めた時代でした。このような時代に初めて漢方に触れ、自然の力で人間の健康に寄与しうる素晴らしい医学があることを知り、漢方を通して世のため人のためになることをやりたいと思うに至ったのです。医学部を卒業した頃も漢方は現代医学に比べれば低く見られる時代でしたから、内科研修を済ませた後、このような時期に漢方だけやっていたのでは通用しない、もっと現代的な科学的解析をきちんとやらなければ（つまり Evidence-Based Medicine が必要、ということ当時すでに指摘されたのでした）という先代の薬理学教授古川達雄先生のお教えと漢方に対するご理解で、薬理学教室にしばらくお世話になりました。漢方生薬成分の抗炎症・抗アレルギー作用に関する研究で学位も取らせていただいた後、漢方がらみのエイズに関する研究でニューヨークに2年間留学しました。帰国後、日本のエイズ対策の遅れに愕然とし、啓蒙活動などこれはこれで一所懸命にやりましたから、一時は『エイズの宮本』と言われるくらいの時期もあり、横浜で開催された国際エイズ会議ではラウンドテーブルで、漢方なども含めた代替医療に関するセッションを任されたこともあり、当時を知る人からは、いま『漢方もやっているんですか』と聞かれることもありますが、私の専門は実は漢方であり、『エイズ』は漢方を続けていく上での一つの病気にすぎないのです。

山口大学病院の漢方外来はいまや多いときには予約だけで一日50人を超すこともあるくらいに潜在的な漢方の需要は大きいものがあります。まもなく迎える21世紀のポストゲノム時代には、ゲノムに基づくテーラーメイド医療が医療の中心になると考えられますが、漢方は古来よりテーラーメイド医療として個の医療を実践してきたものであり、ますます重要性を増すと思われます。この8月から山口大学においてそれなりの立場を与えて頂いたということは、漢方を通して世のため人のため、という初期の『志』を持続発展させていきなさい、という『天の思し召し』と思って新たなスタートをきりたいと思います。

1993年、菊池教授の御尽力で福大病院に東洋医学外来が開設されて以来、漢方部門を担当、いまも非常勤で引き続き担当させていただいておりますが、今後ともご支援の程よろしくお願い申し上げます。

私にとっての『志高 清 遠』を四半世紀かけて少しだけ実践できたかなと思いますが、21世紀に向け新たな『志高 清 遠』の実践を開始したいと考えています。

教授就任祝辞

福岡大学副学長 菊池昌弘



宮本康嗣君は、九州大学理学部化学科を卒業され、津村順天堂、津村研究所薬理研究室に4年間勤務されていらっしゃいましたが、それまで培われた知識を医学の道で生かしたいとして福岡大学医学部に進まれ、昭和58年に卒業されておられます。卒業式の後の謝恩会の席に奥様とかわいらしい子供さんがいらっしゃり、先生が晴

れ晴れとしたお気持ちを素直に表されておられたことが思い出されます。

2年間の内科研修をすませ、臨床医としての活動を始められましたが、それとともに漢方を基にした治療学を目指し、その後薬理学教室で研究の道に入り、平成元年から2年間ニューヨ

ークコロンビア大学に留学され、エイズの臨床免疫について研究されておられます。帰国後は、薬理学教室で研究を続けられるとともに第一内科で漢方ならびにエイズ外来を担当されていましたが、平成9年8月請われて、新しく新設された山口大学医学部生体防御機能学講座の客員教授として赴任され、漢方薬の慢性炎症や、癌免疫に及ぼす作用機序の解析を中心として教室づくりに努力なされていましたが、このたび講座として完成され教授となられたことは、大変喜ばしい限りです。

先生は、学生時代から、はっきりとした目的意識を持ち、病める者への、限りない労いの心を抱きながら、その解決への道を見いだすための努力を続けて来られました。そしてその苦勞が今日に至ったものであります。先生がお書きになられた、エイズに関する書籍には、そのお気持ちがよく現れています。どうか今後、東洋医学と、西洋医学の架け橋になるべく力を発揮して頂きたいと望みます。

宮本康嗣博士の教授就任を祝う

熊本・医療法人広安会 益城病院院長 犬飼邦明（6年生）



吉報を知らされたのは県南のあゝる温泉地でのことであつた。彼は愛用のMacの非凡さをひとしきり自慢したあと、それで作った自作の名刺を一枚差し出した。「台紙を他から流用してみた」との説明を受けながら私は肩書きを見て、『もう、助（たすけ）は要らないのでは？』と思ひながらも言いよんでいた。彼の健康状態も知っていたし、互いに齢（よわい）五十を

節目に、「球磨川の如く肅々たれ」と、軟着陸の方法でも語り合おうと集まった席でもあったからである。しかし、程なく彼は「実はもう一枚出来たての新しいのがあるのですよ」と、別の名刺をさりげなく取り出した。私は一瞬息をのんでいた。それには何と、紛うことなきProfessorの肩書きが記してあったのである。彼は演出家である。多くの場合それは劇的な効果を出すための脚本として描かれる。そのことを私は忘れていた。

今は昔。新入生コンパの幹事を務めた彼は、自己紹介で「女学生の皆さん、私を好きにならないで下さい。私は女嫌いですから」と宣言した。そして、ドイツ語に翻訳した草津節を高らかに唄った。愛妻をめとるわずか一年前のことであつた。今は昔。Miles Davisを盗撮した75年東京厚生年金会館ライブのパネル写真は、彼の自慢のコレクションのひとつであつた。ビール代にも事欠いていた当時の我らは、七隈祭に便乗し一儲けをたくらんだ。一杯機嫌で本学学舎の通路に虎の子のパネルを展示し、「残り僅か、早いもの勝ち!!!」と大書し、あろう事か数字の10から3までに丁寧に朱を入れ客を待った。現れたのは当時本学学生課の指導員らで、取調室に連行され、「何枚

売ったのか、売り上げはどうか」としつこく尋問された。無論一枚たりと売っていたわけではなかつた。

今は昔。彼の蒐集癖は常軌を逸したものであつた。当時既に、録音済みのカセットテープは一生かかっても聴き終えることのできない本数に達していたし、それはやがてビデオに移り、CD、DVDに変わり、最近ではMP3に圧縮しないことには、どうしてもなくなったそうである。当然である。まめで、凝り性のくせ、ひとことという器用貧乏な彼であつた。彼が山口大学に赴任する直前に、台湾で遊んだ。それは愉快な旅であつた。中国語にも堪能な彼の語学力は大したもの、日本人が足を踏み入れないようなところまで入り込むことができた。そこで彼は、ソフトショップを捜し出し、中国語の音声入力ソフトを買った。日本で買うよりいくらか安かつたらしいが、その差は旅費の半額にも満たなかつた。似たようなことで、学生時代からよく議論したものである。一度思いこむとなかなか意見を曲げない男でもあつた。理論家で、能弁家でもあつた。

畑違いの私には、学者としての彼のすごさはわからない。九州大学の理学部を卒業し、ツムラの研究所で働き、医学部に入り直したこと。薬理の基礎研究で学位をとり、漢方やAIDSに関する多くの著書や学会のコーディネートを、難なくこなしていることなどをみると非凡なのであろう。アメリカ留学中の彼に訪米した知人を紹介したら、何人もの血を欲しがするため、ドラキュラとあだ名が付いていた。AIDSをライフワークに選んだ頃だった。そんな彼がProfessorになるという。実に愉快である。持ち味を生かして欲しいと思う。今どきの若いもんは、楽しむために働いているという。彼なら楽しませてくれるに違いない。それにしても残念である。十年遅かった。健康のことではない。わずか十年しか活躍できないのだから。演出家でもある彼に、生涯の友として心からの祝福を捧げたい。

教授就任ご挨拶

福岡大学医学部内科学第三 教授 向 坂 彰 太 郎



[向 坂 彰 太 郎 (内科学第三)]

- S53.3 久留米大学医学部卒
- S57.3 久留米大学医学部研究科
博士課程修了
- S53.4 久留米大学医学部 助手
(内科学第二)
- S60.4 米国Yale大学肝疾患研究員
(～S62.3)
- H 6.1 久留米大学医学部講師
(内科学第二)
- H 9.1 久留米大学医学部助教授
(内科学第二)
- H12.4 福岡大学医学部教授
(内科学第三)

2000年4月に、医学部の第三内科に赴任いたしました。第三内科は、医学部内科の講座再編に伴い、旧第1内科の消化器（消化管および肝・胆・膵）部門に属していたドクターを中心として、新講座として開設されました。私は、1978年の久留米大学の卒業で、卒業後同校の第二内科において、消化器病特に肝・胆・膵疾患の診療に従事してきましたので、この度新たに出発した第三内科において全く違和感なく仕事を始めることができました。第三内科の医局員は皆若く、エネルギーにあふれ、毎日診療に励んでいます。このため、消化器疾患の入院および外来の患者数も着実に増加しています。また、私も赴任以来積極的に福岡市内の医師会において講演をさせていただき、福岡市内の先生方より福岡大学ならびに第三内科に一人でも多くの患者さんを紹介していただけるように努力いたしております。一方、今後数年を経てさらに多くの医局員を集め、臨床のdutyが少し楽になれば、是非消化器疾患の疑問点を基礎的研究により解明し、あるいは、世界中の患者さんが恩恵をこうむることができるような新たな治療法の開発をめざし、人材を育成していきたいと思っています。“他の研究者がやったことはやらない”という私の研究におけるポリシーに基づいて、なるべく独創的な研究テーマを選び、地道に研究を行っていこうと考えています。将来的には、第三内科を福岡における消化器病の臨床および研究の中核センターに育て上げ、九州一円はもとより、アジアの国々より患者さんならびに研究者が訪れるような科としたいと思います。今後、学内および福岡大学のOBの先生方にはどうぞ宜しく支援いただきますようお願い申し上げます。

なお、福岡大学医学部第三内科のホームページ

(<http://133.100.158.12//interna3/index-j.htm>) を立ち上げましたので、一度アクセスされてみて下さい。

教授就任ご挨拶

福岡大学医学部内科学第四 教授 斉藤 喬雄



[斉藤 喬雄（内科学第四）]

- S46.3 東北大学医学部卒
- S47.3 東北大学医学部医員
(研修医・第二内科)
- S49.4 東北大学医学部医員
(第二内科)
- S54.10 東北大学医学部助手
(第二内科)
- S56.4 東北大学医学部附属病院
助手 (第二内科)
- S58.3 オーストラリア・モナッシュ大学
上級研究員 (～S60.4)
- S62.10 国立療養所宮城病院 (内科)
- S63.4 東北大学医学部附属病院
助手 (第二内科)
- H 2.1 岩手県立宮古病院第一内科科長
- H 2.4 東北大学医学部附属病院
助手 (第二内科)
- H 2.6 東北大学医学部附属病院
講師 (第二内科)
- H10.9 東北大学医学部附属病院
助教授 (血液浄化療法部)
- H12.4 福岡大学医学部教授
(内科学第四)

平成 12 年 4 月 1 日付けで、新設されました内科学第四講座の主任教授に就任致しました。私は、今までの生活の大半を仙台で過ごし、九州とはほとんど無縁だったので、同窓会に加えていただくに当たり、簡単な自己紹介をさせていただきます。

私は、昭和 46 年東北大学医学部を卒業し、当時鳥飼龍生教授から吉永馨教授に引き継がれた東北大学第二内科に入局しました。この内科は、高血圧、内分泌、血液、免疫とともに腎臓を専門としており、私は一貫して腎疾患に関連した診療研究に当たってまいりました。入局当時は、大学紛争の影響もあって医局員が少なかった反面、さまざまな疾患の患者さんが訪れましたので、原発性腎疾患や膠原病に伴う腎疾患の診療について多くの経験を積める恵まれた環境で過ごしました。また、臨床における状況を十分に把握して腎生検を行い、病理診断の詳細な検討結果を治療に反映することが、私たち診療グループの目的でありました。そのような視点に立って、東北各地の腎生検標本約 13,000 例の病理診断に携わり、その結果をもとに、さまざまな腎疾患に対する免疫学的な関与について、研究を行いました。さらに、このような疾患に及ぼす脂質異常の影響にも注目し、その機序の解明に関わっております。このほか、出身内科における専門領域との関係で、高血圧、内分泌異常、膠原病などの全身性疾患と腎障害との関連性にも大きな関心を持っております。

私が担当する内科学第四講座は新設された講座ではありますが、実質的には荒川名誉教授が主宰されました内科学第二講座の腎、呼吸器、膠原病の分野を引き継いでおります。これらの各専門分野は、すでに内科学第二講座におきまして十分な実績を上げてまいりました。しかし、この度の内科再編成は、最近の医学・医療状況に対応できるように、内科部門を診療、教育、研究のそれぞれの面でさらに充実させるための措置と認識しております。今までの実績を無にすることなく、このような目的に邁進することが、私たちに課せられた任務であります。この中で、着任以来まだ数ヶ月しか経っていないにも関わらず、福岡大学医学部の皆様方の多大な支援をいただき、医局の礎が築かれつつあることを心強く感じております。福岡大学が医療および医学教育・研究の中心的存在として、さらに発展を遂げるように、内科学各講座と連携をとりながら努力を致したいと考えております。

主任教授就任のご挨拶

福岡大学医学部脳神経外科学 教授

福島 武雄



【編集部註：教授略歴は主任外教授ご就任時掲載しましたので省略します。】

新しいミレニアムの年に、主任教授として拝命され、既に半年が過ぎようとしています。大学人として、福岡大学で27年間診療、教育、研究と携わってきましたが、今までとは違った使命と決意を感じるこのころです。6年前にも教授としての自己紹介を書かせて戴きましたので、最近頭を離れない大学事情について述べたいと思います。

近年大学病院も独立行政法人化の波が押し寄せ、医療の質及び臨床医学教育の重要性が再認識されています。大学病院の社会的使命は教育、研究、診療にあることは、言を待たないことでありますが、あまりにも研究重視で、教育、臨床に関してはほとんど評価が無いのが現状です。大学病院でも患者中心の医療が最重要課題で、在院日数の短縮化、医療の質の向上などをうたったクリティカルパスの導入、ディ—サー ジャリー、病—診連携、紹介率向上などが求められています。

医学教育にも医療に専念する良き臨床医を育てるために、医学教育の初期から臨床医学を取り入れ、米国直輸入のクリニカルクラークシップ、オスキーの導入がもてはやされています。これらの言葉は良く理解されたうえで医学教育に導入されたものですが、実際の教育にあたっては、果たしてどのくらいの教官が、米国ではどのように行われているのを理解しているのでしょうか。このような教育を充実するには、それなりのスタッフと経験が必要と感ずります。実際米国の医学教育、卒後教育をみましても、幅広い人材と徹底した教育がなされています。一方日本の医学教育には、入試から卒後まであらゆる点で大きな隔たりがあります。はっきりしていることは、米国の医学教育では、学生が、医師志望の目的意識をはっきりもっており、大学教育で多くの臨床経験を積ませていることであり、日本の医学教育では、医学生が高卒で目的意識に乏しい上に、基礎医学および臨床医学教育を受け、医師国家試験習得後に卒後臨床研修を行い、ようやく臨床医となるわけで、全く異なった基盤での医学教育が行われています。日本の医療を担う優れた医師を養成するには、米国直輸入型教育でよいのか、戦後民主主義が導入された時と同じく、言葉のみが先行しその本質が取り入れられているのだろうか、十分に検討する必要があります。最近では医療への信頼も大きく揺らいでおり、幅広い教養、多くの資質が医師に求められています。このことこそ、医学教育を考えるうえで、最も重要な課題だと考えるこのころです。

会報第28号 過誤訂正とお詫び

会報第28号、13ページ 朝長正道教授退任挨拶「退任にあたって」の記事中下記のように誤植がありました。謹んで訂正とお詫びを申し上げます。

①左列29行目下線の部分

〔誤〕医学や医療には絶対に越せない限界がある。退くべき時を見失わないようにと論じてきた。

〔正〕医学や医療には絶対に越せない限界がある。退くべき時を見失わないようにと論じてきた。

②右列13行目下線の部分

〔誤〕エリートは他者に対して自らを相対比し、欲望を抑え、謙虚である。

〔正〕エリートは他者に対して自らを相対化し、欲望を抑え、謙虚である。

研究奨励賞

平成12年度同窓会研究奨励賞選考報告

選考委員長 朔 啓二郎（1回生）



同窓会研究奨励賞選考委員会も今年で4度目をむかえました。今回の応募数は8件、同窓会独自の選考基準が確立されつつあるのは事実です。今年度より、選考委員に福岡大学小児科の廣瀬助教授を加え、7名か

らなる選考委員会を新しく組織、スタートしました。

過去と比較して、応募論文、研究テーマの質が向上し、選考の規定が再び揺らいでいくのがよくわかります。同窓会執行部に対し、3人の受賞枠が少なすぎること、賞金30万円が研究プロジェクト遂行に安価でありすぎること等をずいぶん申し入れしましたが、今年度にかぎり、4枠の研究奨励賞プラス優秀論文賞1件（賞状、万年筆のみで、賞金なし）の計5件選ばせていただきました。優秀論文賞はNew Engl J Medをヒットさせた微生物学教室の原賀勇壮君（16回生）、彼は以前大学院の1年生の時に、同じ研究テーマで同窓会の研究助成金を授与されていますが、微生物学の永山教授のご丁寧な指導の結果、今年のNew Engl J Medパブリッシュに

つながりました。永山教授、原賀君に、同窓会研究奨励賞の品格を上げていただいたことに心から感謝申し上げます。研究奨励賞には、聖マリア病院神経放射線科の案浦清高君（13回生）、小児科学の井上貴仁先生（15回生）、内科学第二の上原吉就君（16回生）、眼科学の内田博子君（17回生）を選びました。眼科の内田君は今年で3度目の応募でしたが、3年間の間に、これだけ立派な論文が書けた彼女の成長過程を、選考委員会は目の当たりに見てきましたが、満票で決まりました。研究費獲得は、そこから何かがスタートできるということだと理解していますので、8名の先生方の研究に対する態度に心から敬意を表したく存じます。来年もどしどし応募していただくようお願いします。今年だめでも、何回もアプライして下さい。同窓会はその様な先生方に手をさしのべるよう努力します。

選考委員、1回生、二見、林、朔、3回生大慈弥、廣瀬、5回生木村、6回生上村ですが、皆さんご存知の様に、一筋縄ではいかない人ばかりで、申し訳なく思ってます。受賞を機に、さらに羽ばたかれんことを希望します。

奨励賞受賞者の言葉

Increased Chymase Activity in Internal Thoracic Artery of Patients with Hypercholesterolemia (高脂血症患者における内胸動脈キマーゼ活性の増加)〔論文〕

福岡大学医学部内科第二：研究生 上原吉就（16回生）



この度、平成12年度福岡大学医学部同窓会研究奨励賞に私どもの論文が受賞できたことを心より嬉しく思っております。

私、本年5月よりドイツ・ミュンスター大学へ留学致しており、留学先ドイツにて受賞の知らせを受け大変喜んでおります。本研究をご指導頂いた先生方および本研究を認めて下さった福岡大学医学部同窓会ならびに同窓会研究奨励賞選考委員の皆様方に、この誌面を借りて心より感謝申し上げます。この賞をバネに更に医学の発展に寄与できる研究をしていきたいと考えております。



眼内血管新生抑制作用における接着因子とサイトカインのネットワークの解明（網膜色素上皮細胞の代謝との関係について）〔計画〕

福岡大学医学部眼科学：大学院生 内田 博子（17回生）

この度は、皆様の御厚意により奨励賞を頂くことができ、心より御礼申し上げます。私達眼科の研究室では、以前より眼内血管新生について研究を続けています。糖尿病網膜症や未熟児網膜症、老人性黄斑変性症など、血管新生により引き起こされる病変は、難治性で視力予後も非常に悪く、効果的な薬剤もありません。私は、血管新生を阻害する数多くのファクターの中で、接着因子について研究をしています。眼内血管新生の原因究明、治療法の確立に貢献できるよう今後も研究を深めていきたいと思っています。ありがとうございました。



造影 MRI による転移性脳腫瘍検出能の検討 － Magnetization transfercontrast(MT)pulse を加えた造影剤通常量投与 T1 強調像と造影 FLAIR の有用性について〔論文〕

聖マリア病院神経放射線科：医員 案 浦 清 高（13回生）

このたびはこのような栄誉ある賞を頂きまして誠にありがとうございました。MRIの造影FLAIRという撮像法を用い、脳の微小転移巣の検出について検討しました。今後、症例を増やし、また他の症例にも応用できればと考えています。現在久留米の聖マリア病院の神経放射線科に勤務しておりますが、脳卒中の症例が特に多く、そのほか非常に珍しいcaseも多数みられ、これらの症例を集めて論文や学会発表等頑張っていきたいと思っています。諸先輩方のご指導をこれからもよろしくお願いいたします。今回はありがとうございました。



ヒトてんかんと同じ遺伝子異常を持つモデル動物の作成〔計画〕

福岡大学病院小児科：助手 井 上 貴 仁（15回生）

福岡大学病院小児科の井上貴仁です。この度は、このような栄誉ある賞をいただき喜びとともに厚く御礼申し上げます。私は小児科医ですが、てんかんという小児に多い疾患があります。けいれん発作を主症状とする疾患ですが、なかなかけいれんが止まらない難治性てんかんの子どもたちもいて、本人、家族の不安はとても大きいものがあります。近年このてんかんの病因を解明しようという試みが盛んに行われてきています。私は分子生物学的手法を用いて、てんかんの発症機構の解明はもとより患者さんに還元できる、すなわち治療につながる研究を行いたいと思っています。今後とも諸先生方の御指導御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



バンコマイシン耐性 MRSA におけるバンコマイシンとβラクタム系抗生剤の併用の危険性〔論文〕

福岡大学医学部微生物学：助手 原 賀 勇 壮（16回生）

今回この賞を戴くまでには、どのような言葉でも言い表せない感動がありました。平成10年度と同窓会の研究助成金を戴いた研究だから、なんとかして、メジャーな雑誌に発表したい・・・、信頼には、信頼で応えたい・・・、そういう思いがありました。思いが通じたのか、臨床系の雑誌としては最高峰の N Engl J Med に意見を発表する幸運に恵まれました(1999;341;1624-5)。

しかし、最も感動した事は、この幸運を同窓会の諸先輩方が本当に喜んで下さった事です。以心伝心というのでしょうか・・・、本当の誠意は伝わるものだ確信し、涙が溢れて止まりませんでした。

この経験によって、誇りや信頼だけでなく、人を讃え、人を励まし、人と喜びを分かち合う・・・なんだかビールの宣伝のようですが、そういった、とても大切なものに触れることができたように思います。貴重な経験をありがとうございました。

平成 11 年度研究奨励賞受賞者研究報告

CEA 特異的なキメラレセプター遺伝子を用いた癌の遺伝子治療
— T 細胞の癌細胞への効果的集積法および活性化の検討 —

福岡大学病院泌尿器科 医員 富田 能弘 (14 回生)

【目的】

CEA 産生腫瘍に特異的かつ有効なエフェクター細胞を遺伝子組み換え操作により作製することが目的である。CEA と特異的に反応する単クローン抗体 (F11-39) の一本鎖化抗体 (scFv) と細胞内 signal 伝達を担う CD3 ξ , または他の CD 分子の一部を連結させたキメラ免疫レセプター (CIR) 遺伝子を作製。T 細胞に導入し, CEA との反応性を検討した。

【方法・結果】

- 1) CIR 遺伝子の作製・導入: F11-39 産生ハイブリドーマからクローニングされた VH 遺伝子と V_L 遺伝子をリンカーでつなぎ scFv 遺伝子を作製。scFv 遺伝子下流にヒト CD8 ヒンジ領域の遺伝子を結合し, CIR の細胞外領域とした。CIR-1 は細胞外領域にヒト CD3 ξ の膜貫通領域以下の遺伝子を結合。CIR-2 は細胞外領域にヒト CD28 の膜貫通領域以下の遺伝子と CD3 ξ の細胞内領域を結合。これらの CIR 遺伝子をネオマイシン耐性遺伝子を持つ発現ベクター pcDNA3.1(-) に挿入した。発現ベクターを jurkat E6.1 に導入し, 得られた遺伝子導入細胞を以下の解析に用いた。
- 2) CIR 遺伝子導入の確認: 遺伝子導入細胞から DNA を抽出。scFv に特異的プライマーで PCR を行い CIR-1, 2 導入細胞の両方で約 800 bp のバンドが得られ, CIR 遺伝子が染色体への組み込みが確認された。
- 3) CIR の mRNA での発現解析: 遺伝子導入細胞から RNA を抽出後 cDNA を合成。scFv に特異的プライ

マーを用いて PCR を行い, CIR-1 では濃いバンドが認められたが, CIR-2 では薄いバンドしか認められず, 転写レベルでの発現が低下していた。

- 4) CIR 蛋白の解析: 遺伝子導入細胞の cell lysate を CEA-Sepharose 4B で免疫沈降後, anti-CD3 ξ 抗体での Western blotting を行なった。還元状態では, CIR-1 では予測分子量と一致する約 45kDa のバンドを得たが, CIR-2 では微かなバンドしか得られなかった。非還元状態では, CIR-1 は 45kDa のメインバンドの他に, 140kDa のマイナーバンドを得た。大部分の CIR は単量体で存在するが, 3 量体のものも存在することが示唆された。
- 5) CIR の細胞表面への発現解析: 蛋白の強い発現が確認された CIR-1 遺伝子導入細胞で, flowcytometry を用いて anti-CEA scFv の発現を解析したが, 細胞表面への発現を認められなかった。

【結論】

今回作製した CIR 遺伝子では, 細胞内での CIR 蛋白合成は確認されたが CEA と反応する scFv 部分の細胞外への発現が認められなかった。これは、遺伝子導入細胞がクローニングされていないためにその発現量が低い、細胞外に発現していない可能性が考えられる。今後は、機能的な細胞外領域を作製するために、他の CD 分子との組換え遺伝子の作製を考えたい。

Helicobacter Pylori(H.Pylori)陽性消化性潰瘍患者における
HLA-DNA タイピングの検討

福岡大学医学部内科学第一 吉 武 佐枝子 (14 回生)

【目的】

Helicobacter Pylori(H.Pylori)が消化性潰瘍に密接に関与しているとされ、多くの研究がなされているが、H.Pylori 側の細菌学的検討の報告が主であり、宿主の遺伝的要因と感染との H.Pylori 関係を検討した報告は少ない。このため H.Pylori 陽性の消化性潰瘍・胃炎と HLA Class II 遺伝子との関係について検討した。

【対象・方法】

H.Pylori 陽性者の胃潰瘍患者 58 名、H.Pylori 陽性者の十二指腸潰瘍患者 44 名、H.Pylori 陽性者の胃炎患者 44 名に対し、非感染者 34 名をコントロールとした。感染の有無は生検組織培養もしくは鏡検にて H.Pylori を認める場合を陽性とし、両者共に H.Pylori を認めない場合を陰性とした。以上 4 群に対し HLA Class II 遺伝子群を PCR-SSOP 法を使い DNA タイ

ピングを行ない、それぞれの群とコントロール間において Class II 遺伝子の頻度を比較検討した。

【結果】

- 1) 胃潰瘍患者群では DPA1*0201($p=0.032$), DPB1*0901($p=0.05$)が正の相関を、DRB1*1502-DQA1*01021-DQB1*0602 ハプロタイプ($p=0.05$)が負の相関を示した。
- 2) 十二指腸潰瘍患者群では DRB1*0405($p=0.022$), DQB1*0401($p=0.044$)が正の相関を、DRB1*1501-DQA1*01021-DQB1*0602 ハプロタイプ($p=0.04$)が負の相関を示した。
- 3) 胃炎患者群では DPB1*0901($p=0.016$)が正の

相関を、DRB1*1501-DQA1*01021-DQB1*0602 ハプロタイプ($p=0.03$)が負の相関を示した。

【結論】

H.Pylori 感染において DRB1*1501-DQA1*01021-DQB1*0602 ハプロタイプが抵抗性に関与していた。一方 H.Pylori 陽性の消化性潰瘍・胃炎における感受性は、宿主の遺伝的要因よりも、他の感染要因が強く関与している可能性が示唆された。

Adrenomedullin の子宮胎盤循環における役割について

福岡大学病院産婦人科 医員 牧 野 郁 子 (15 回生)

妊娠中毒症は高血圧、蛋白尿、浮腫を主徴とし、母体ならびに新生児死亡率の大きな原因の一つであるが、その原因ならびに病態については不明である。最近では血管内皮細胞を中心とした血管系の機能不全が注目され、多くの血管作動物質に関する研究が進められている。

Adrenomedullin (AM) は、1993 年にヒト褐色細胞腫より分離された 52 個のアミノ酸からなるペプチドで、強力な血管拡張作用を有することから、体液や循環調節に関与する新たな物質として興味をもたれてきた。近年さらに病態との関連が注目され、AM が心不全や高血圧疾患に防御的に働くことが報告されている。一方、産婦人科領域では妊娠の経過とともに血中 AM が増加することが報告されているが、胎盤、子宮などの生殖臓器での分布ならびに妊娠中毒症との関連については不明である。そこで我々は妊娠中毒症モデルラットを用い、各臓器での mRNA の分布、AM の循環器作用を検討した。

まず、正常血圧妊娠ラットにおける AM mRNA の分布の検討では、高い発現を認めると報告のあった副腎や心臓、肺といった循環器臓器よりも、

胎盤や卵巣、子宮などの生殖臓器で高い発現を認めた。

また nitric oxide 合成阻害剤を使用し作成した妊娠中毒症モデルラット（妊娠高血圧モデルラット）を用いた実験系において、AM 持続投与により妊娠高血圧と胎仔生存率は有意に改善された。

次に、ヒトの組織において検討した。福岡大学病院においてインフォームドコンセント下に帝王切開時、生殖器臓器（卵巣、胎盤、臍帯動脈、子宮筋）を採取し、妊娠中毒症群と正常血圧群における AM mRNA とそのペプチド含量について検討したところ、AM ペプチドならびに mRNA レベルは臍帯動脈のみ、妊娠中毒症群で有意な発現増加を認めた。このことは妊娠中毒症でみられる臍帯血管の収縮に対し補完的に働いている可能性が考えられ、今後の研究課題となった。

以上のことより、AM は妊娠ならびに妊娠中毒症における循環調節因子として重要な役割を演じている可能性が示唆された。

会員寄稿

国試対策の思い出

彦根市立病院神経内科部長 辰 己 裕 之 (8回生)

今年の8月も京都鴨川で上方会をもつことが出来ました。上方会は福岡大学医学部関西出身者(学生・OB)による会であります。例年通りの和気あいあいとした集いのなか、1回生の中川俊正先生、2回生の原吉幸先生から、「今年の国試合格率は良くなかったね。」というお話が出ました。「がんばってほしいですね。」と相づちを打ちながらも、遠方から助けも出来ない、していない自分を恥じたものです。

自分は8回生(S60年卒)であり在学中、国試対策委員長をしていました。委員長とは言え、ご存じの通り国試にまつわる雑用係でして、その業務としては会計であったり、父兄会や学部長はじめ各所にお願ひにあがったり、同級生みなに説明したり、プリントを刷ったりいろいろでした。わが学年時の国試対策委員には山崎世紀さんがおり、その人徳により同学年そして他学との連携を保ってください、また「Born to be 世話人」とまで唄われた馬渡秀仁君が居て、学内の舵取りをしてくださいました。その他大勢の協力者や先輩後輩、菊池先生、さらに余裕のある学生の積極的な支援のおかげで、まずまずの結果が得られたものと思います。

国試直前の私の日記を見なおすと、やれアークホテルの部屋割りだ、コピー機はどうした、情報のなんのかんのと言っているうちに当日を迎えたようなあわただしさを感じられます。私事です、自分の国試後の入局先は一内科でした。その一内科の先輩から「研修医になったらネーベンに車が要るぞ。」と聞きました。そこで国試の年の1月から普通免許を取ろうと教習所に通いだして、3月中旬にやっと試験に至ったのはよいのですが、合格率9割を超えるという筆記試験で、国試対策委員長みずから不合格となっていました。同級生には笑われるし、委員会の同僚には縁起が悪いと言われました。「落ちたのはみんなの厄落としなんだ。」と言い張っていたのを覚えています。

いまとなっては当時の楽しいことしか思い返せませんが、自分の勉強と並行して国試対策に時間を割くのは、委員にとって大変なことです。委員の連中が、それでもやっ

ているのは、そういう仕事が好きだからではなくて、やはり同級生の役に立ちたい、みんなで通りたいという気持ちがあることです。(学生の)みなさんも、彼らに協力してやってください。たまにご苦労さまと言ってやってください。

合格率アップには、本人の努力、教育とならんで学年内の連帯感が大事だと思います。医学生個々に異なるバックグラウンドがあり、また入学年度も異なる中で連帯感を見つけたのはなかなか困難でしょうが、SGTでのつきあいや飲み会、クラブ、同郷の集いなどで交流していいと思います。先ずは「日々のあいさつをしあうこと」、これは、学校でも、将来の職場でも基本だと思います。

同窓会としても国試対策を応援して、ワースト5、新卒合格70%以下の汚名を是非とも晴らしたいものです。学生の連帯感が大切と申しましたが、烏帽子会の連帯感もさらに大切です。受かっても同窓、落ちても同窓という思いが、受験者に浸透していることが、本番前では大事だと思います。

国試対策担当になられたとお聞きします朔教授を盛り立てて、このような自明のことを実現するには、どうしていったらいいかを、同窓会みなで考えてまいりましょう。



向かって右が筆者「お子様と共に」

福岡大学医学部同窓会支部便り

佐世保支部会

支部長 山 川 裕 (4回生)

本年度より支部長を任せられました、山川と申します。第4回卒業生で、第一内科に所属していました。御記憶にない方も多いと思われます。我ながら余り役にたちそうにないと思っていますが、少々でもお役にたつのであればとお引き受けいたしました。長崎県は真中に大村湾を置く地形で長崎市、佐世保市はそれぞれ反対側に位置し、距離的に気軽に集まることができない現状ですが、現在、この佐世保支部には県北地区を中心に会員数も徐々に増加し、賑やかになって参りました。会員の年長者はそろそろ五十歳台、子供も高校だ大学だと頭の痛い年代です。思えば自分自身がすごした思い出深い大学生活に、自分の子供たちがかかろうとは、時の経つのは早いものです。

原稿を書きながら、研修医の頃に学会資料の作成にパソコンやワープロを使い始めたことを思い出しています。あれから15年以上たつのにいまだに上達の兆しはありません。せいぜい年賀状を書くかトランプで遊ぶか位です、当分うまくはならんでしょうね。(閑話休題)

支部会の今後の課題、私見ではありますが、現在、久保次郎先生を初めとする諸先生の個人的魅力、およびご尽力により支部会を形成してきましたが、諸先生の負担も大きくなり、それだけでは支部の運営もつらくなってきているのではないのでしょうか、そろそろ全会員が少しづつ会を支え合うことが必要になっているのではないかと思います。そのためには支部会が魅力あるものでなければならず、情報連絡基地として、会員が必要とする情報を提供し、同窓の医師として(気軽に、先輩後輩関係なしに)相談、話し合いができる場として支部会を形成できれば、会員も参加して支部の基盤はもっとしっかりしてくるのではないでし

ょうか。以上えらそうなことを申し上げましたが、本音はぼちぼち、のんびりと行きたいものです。



熊本支部近況

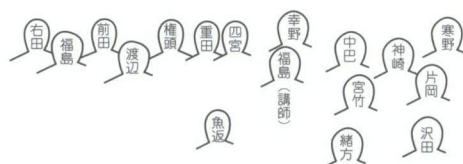
支部長 魚 返 英 寛 (5回生)

熊本支部も本年度新卒帰熊Dr.4名を加え127名、開業医も52名と増えていますが、医療環境は益々厳しくなり、とくに開業医は皆苦労しているようです。本年も5月20日に支部総会を行いました。毎年参加する顔ぶれは固定してきた様です。翌日には有信会熊本支部との合同ゴルフコンペが行われ盛況のうちに終わりました。4月2日には筑後支部との懇親対抗ゴルフコンペも実施し、支部間の交流も盛んです。本部評議員会の報告での年会費の徴収の件ではレスポンスは今一つ

です。引き続き努力中です。次々とOBからメジャーの臨床の教授ができましたので、同窓会の意識高抑につながることでしょう。



H12.5.20
熊本支部総会



関西支部

支部長 中川俊正（1回生）

関西支部では、8月5日土曜の夜、恒例の総会を開催しました。昨年同様、京都の正木先生のお世話で、鴨川べりの川床料理を楽しんだ後、2次会は藤岡先生引率のもと祇園へ繰り出して楽しいひとときを過ごしました。初参加の養田先生は、伊丹の自衛隊病院に単身赴任中で、男くささが満ちていました。一方若手代表の多根井先生は、昨年は外科医1年目でしごかれて、がりがりでしたが、今回は体重も戻り元気そうでした。前田純男先生はもうじき開業2年目に入るようで頑張っておられます。彦根の辰巳先生は福大の国試合格者の低下を憂っていました。渡邊先生は東豊中の病院が忙しそうで、常勤医を探しておられます。幹事の正木先生の新婚の奥さんは皮膚科の先生だそうです。藤岡先生は今回は特に頼もしく見えまし

た。木下先生に誰かいい人を紹介してあげて下さい。原先生は新病院に引っ越しで忙しそうです。山戸さん、煙草は控えめにした方が、健康にいいですよ。

関西支部がはじまって、今年で4年になります。大阪で2回、京都で2回会合を開いたのですが、沢山の会員と会い、言葉をかわしました。関西支部の会員の多くは、卒業後一匹狼として行動している人が多いせいか、個性的な人が多いと思います。我々関西支部からは福大は遠い世界です。夏と冬、母校を思い出し、自らのアイデンティティを確かめています。何年たっても、どこへ行っても、福大卒業という肩書きはついて回ります。死ぬまで大学を卒業できない我々です。人種問題のようにも思います。また、上方会の会員は、学生時代に関西人として博多に住む事の居心地の悪さを共有しあったという原体験の意識上でのつながりもあります。実社会で自分を見失いそうになってる関西在住の会員の皆さん、是非次回は会に来て下さい。自分に原点に戻りましょう。

会の現在の悩みは、卒業後2、3年の若い会員の利益になるような活動はできないか、落ち着いた年代の会員に参加してもらうためにはどうするか、そして来年はどこでやるかとの悩みです。神戸、奈良、和歌山、姫路、千里中央等、皆さん希望があれば中川まで連絡して下さい。これとは別に、今年の年末も例年どおりキタで学生さんとの交流会もしますので、よろしくお願いします。



第4回生クラス会

福岡大学医学部整形外科 柴田陽三（4回生）

私たち福岡大学医学部第4回卒業生も今年で卒業19年目となります。平成13年には第20回烏帽子会総会の当番学年にあたることから、「一度みんなで集まるべい」、という事で昨年の11月6日、市内の福新楼に総勢20名が結集致しました。出席者の中には卒業後初めて顔を合わす者もありました。お互いの顔を見合わせて「年をとったにゃー！」などと叫びながら、あっという間に医学部の講義室で共に笑い、泣いた学生時代にもどり旧交を暖める事が出来ました。院長として、あるいは第一線病院の部長として活躍している者、職場はそれぞれ異なれど、皆自信に満ちあふれ威風堂々たる出で立ちで、学生時代の印象とずいぶん様変わりした（？）同級生もいました。少々薄くなった頭や、飛び出した腹をつつき合わせながら昔話や仕事の事に話を咲かせました。やっぱり同級生は良いものです。

そうした中で、それぞれの近況報告の後、第20回烏帽子会総会の代表世話人決めを行い、わたくし柴田陽三がその大役を仰せつかることになりました。

た。がんばって総会を盛り上げるぞーと氣勢を上げ、次回は第19回烏帽子会総会の二次会として参集することになりました。引き続き、元気者は二次会、三次会と飲み歩き、最後は数人で長浜ラーメンをすすりながらお開きとなりました。

昨年の約束通り、今年の7月14日烏帽子会総会の二次会として10数名が集まり、来年の総会の開催にあたり話し合いを持ちました。総会のテーマ決め、それに伴う講演者の推薦、開催場所などについて話し合いました。2-3の演者の推薦とテーマについての意見が出されたために、その案を同級生一同に手紙を出し意見をもらうこととなりました。この原稿を書いている現在の時点では総会の開催場所を西鉄グランドホテルで行うことまで決定しております。第4回生一丸となり、総会の開催に向けて頑張っていきたいと思っておりますので、医学部同窓生の皆さん、何卒そろって来年の総会にご出席下さい。一堂に会し旧交を温めましょう。



4回生クラス会

平成12年度 第52回西医体結果報告

西医体委員長 縄 田 秀 幸 (M4)

ハッピーミレニウム!!シドニーオリンピックのこの年に、医学部生の血と汗と涙の結晶西医体が開催されました。結果報告を心待ちにされていたOBの方々、関係者各位遅くなってすみません、ここに西医体の結果を報告致します。

第52回 西日本医科学生総合体育大会結果一覧

愛 好 会 名	結 果
ラ グ ビ ー	ベスト8
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル	男子2回戦敗退・女子1回戦敗退
準 硬 式 野 球	1回戦敗退
ゴ ル フ	19位
剣 道	予選リーグ敗退
サ ッ カ ー	初戦敗退
バ レ ー ボ ー ル	男子1回戦敗退・女子2回戦敗退
硬 式 庭 球	男子1回戦敗退・女子2回戦敗退
柔 道	決勝トーナメント1回戦敗退
卓 球	男子1回戦敗退・女子2回戦敗退
空 手	ベスト16
ソ フ ト テ ニ ス	男子1回戦敗退・女子ベスト8
漕 艇	予選敗退
バ ド ミ ン ト	男子1回戦敗退・女子2回戦敗退
水	男子14位 50m自由形4位 (M4 伊藤 健二)
弓	男子29位・女子15位

全日本医科学生アーチェリー競技大会

団体3位

今回の西医体いくつかのサークルが優秀な成績を残したが、その中から団体戦ベスト8を勝ち取った女子ソフトテニスの試合を取材できた。西医体でおこった様々なドラマのなかのひとつである。

福大軟庭女子は主将M4田中博子を中心にM5井福静佳、真柴晶子、M3安座間亜矢子、M2内野明美、笠原憲子、植木郁子、M1藤田みずきのメンバーで団体戦に臨んだ。

初戦、福井医科を破った福大チームは第2回戦で昨年度優勝チームの奈良県立医科とあたった、その1試合目主将田中は頭脳プレイヤー井福とくみ敵の強豪ペアと決戦した。相手の後衛は強力なシュートを武器とするパワーファイター、前衛はどんな玉にも喰らいついてくる粘っこい選手だ。相手のコンピプレーに苦しんだ田中は井福のアドバイスによりロプで敵を振り回し疲れたところをたたく作戦にでた。この作戦がずばりの中し結果4-2で1試合目を制することになった。つづく2試合目も勝ち取り、第1シードを降したことで優勝への期待がかかったが、惜しくも3回戦で敗れている。しかし、第1シードを破ってのベスト8堂々たる成績だ。主将田中に聞いたところ“いやあ、運がよかったですよ”と謙虚な答えが返ってきた。



(写真、ラケットに勝利を誓う選手たち)



各地からの便り



◆平成12年8月1日 山口大学医学部生体防御機能学教授に就任 [別記参照]

宮本康嗣 (山口大学医学部: 6回生)

◆平成12年7月1日 佐賀医科大学整形外科学助教授に就任

浅見昭彦 (佐賀医科大学: 7回生)

◆吉田医院 (福島県開業) は継続しておりますが、院長職は他の先生にお願いして、現在は妻の郷里の松山でfreeの立場で医業を続けております。

吉田幸彦 (愛媛県松山市: 12回生)

◆平成12年1月より2年の予定で、フランス、ポルドー大学付属オーレベック循環器病院心臓血管外科に留学します。

和田秀一 (広島大学第一外科: 13回生)

◆フィリッピン、マニラ市のディ・オカンポ医大の客員教授となりました。

伊藤実喜 (福岡県春日市: 3回生)

◆朔啓二郎先生は私がM1の夏休みに心カテ入院した時の主治医でした。研修医1年目で手技的には未だ…でしたが(動脈血採取の時1回で採れた嬉しさに、針を抜いたものの圧迫止血を忘れて私の手首にピンポン玉大の血腫ができました)いろいろご多忙だろうに、しょっちゅう話をしに来て下さり(もちろん担当患者さん全員のところへもです)、首席の初回卒業生はやっぱりすごい、と思ったものです。(その後、こういう医師としての姿勢は成績ではなく、性格によるものが大きいとわかりましたが)。人格、品格、性格、業績のどれも卓越した朔先生の教授就任を心からお祝いします。

時枝啓子 (筑紫病院小児科: 7回生)

会報第28号 過誤訂正とお詫び

◆18ページ 教室紹介「大学病院から小児科病棟が消えた」の記事で、最下段の写真は全く無関係の写真でしたので抹消してください。

◆35ページ『各地からの便り』の「劇団 立見席」の記事の中で

①岩尾病院 を 岩男病院に

②岩尾淳一郎先生(病院長) を 岩男淳一郎氏(事務長)に

③岩尾裕次郎先生 を 岩男裕二郎先生に それぞれ訂正して下さい。

さいのお 道祖尾さんの死を悼む

聖マリア病院内科 六 倉 和 生 (21 回生)



道祖尾さんの逝去の知らせを受けて大変驚いております。大学を卒業して2年が経ちここ数カ月はあまり話をする機会はありませんでしたが、知らせを受けた時まさかと思

いました。現実と分かってても全く信じられぬ思いで、一瞬耳が遠くなり動悸で胸が苦しく、つまった様な気分になり仕事も手をつきませんでした。

入学時、道祖尾さんは僕より5歳年上でしたが同時にボート部に入部し、また高校が同じでもあったこともあって、お互いよくに気を使うことなく同じ歳の様に接してくれました。ボート部に入部したのは今から8年前の1992年4月で、入部の動機は『高校時代よりヨットがしたかったが、当学部にはヨット部がなく一番近いのがボートだったから』と言うことでした。ボートの練習はかなりきつかったためかいつも『湖水で爽やかな汗をかきながらするスポーツと思っと思ったのに、こんな重労働とは思わなかった、もうボートはこりこりや』と愚痴をこぼしながらも、毎日夜遅くなる練習にいつも顔を出してはニコニコしながら後輩の指導にあたり、さらにボート部の主将も務めるといった責任感の強い面もありました。引退した後もボートの合宿所ま

でビール（本人も飲みたかったと思います）などの差し入れを持ってきてくれ、いつも『後輩は可愛いかな』と気にかけていました。

またお酒が大好きで、飲み会の席でも明るくひょうきんにおどけてみせたりと、周囲を楽しませる方でもありました。その一方でこちらが本当に困った時にはまじめに真剣に耳を傾け助けてくれたり、年長者には礼儀正しく振る舞い、御両親には記念日には贈り物するといった心遣いもあり、幅が広い存在であった印象があります。

思い出はたくさんあり尽きませんが、あの明るい笑顔と響く様な力強い声をもう聞けないかと思うと心に穴が空いたような、片手を失った様な思いでたいへん残念です。あまりにも突然のことでまだまだ道祖尾さんに話したいこと、相談したいことがたくさんあり心残りです。また寂しいです。今でも元気な姿が眼に浮かんでいますがいまはただ御冥福をお祈りするばかりです。



福岡大学医学部同窓会資料集

第10期役員および支部長名簿

役 職 名	姓 名	回	勤 務 先
会 長	高 木 忠 博	1	脳神経外科クリニック高木
副会長	林 英 之	1	福岡大学病院 眼科
〃	重 田 正 義	2	新栄会病院 外科
理 事 (福岡支部長)	権 藤 公 和	1	権藤内科
〃	朔 啓 二 郎	1	福岡大学病院 循環器科
〃	二 見 喜 太 郎	1	福岡大学筑紫病院 外科
〃	穴 井 堅 能	2	引野口循環器クリニック
〃	小 金 丸 史 隆	3	こがねまるクリニック
〃	松 本 直 樹	3	松本病院
〃	柴 田 陽 三	4	福岡大学病院 整形外科
〃	占 部 嘉 男	5	済生会福岡総合病院 内科
〃	田 中 伸 之 介	5	福岡大学病院 外科第一
〃	上 村 精 一 郎	6	福岡赤十字病院 内科第三
〃	田 野 茂 樹	6	たの眼科医院
〃	井 上 隆 則	7	のぞみメンタルクリニック
〃	武 末 佳 子	11	福岡大学筑紫病院 眼科
〃	笠 健 児 朗	12	笠外科・胃腸科医院
〃	立 川 裕 裕	13	福岡大学病院 心臓血管外科
監 事	江 下 明 彦	2	医) 江下内科クリニック
〃	大 慈 弥 裕 之	3	福岡大学病院 形成外科
評議員	土 持 廣 仁	2	福岡赤十字病院 脳神経外科
〃	小 山 洋 一	4	村上華林堂病院
〃	松 田 年 浩	5	松田脳神経外科クリニック
〃	平 野 基 基	6	平野内科消化器科医院
〃	馬 渡 秀 仁	8	馬渡産婦人科
〃	武 末 淳 一	10	たけすえ耳鼻科クリニック
〃	田 中 彰 一	11	田中内科医院
〃	池 田 耕 一	14	熊本セントラル病院 脳神経外科
〃	喜 多 村 泰 輔	16	福岡大学病院 救命救急センター
〃	加 来 良 夫	18	福岡大学筑紫病院 内科第二
〃	佐 々 木 隆 光	19	福岡大学医学部 外科学第一
〃	高 橋 聡 一	21	福岡大学病院 皮膚科
〃	田 中 信 英	23	福岡大学病院 内科
〃	浦 田 秀 則	3	福岡大学病院 循環器科
〃	嘉 数 徹 徹	4	福岡大学病院 外科第一
〃	酒 井 憲 見	8	福岡大学病院 外科第二
〃	森 聡 子	13	福岡大学病院 総合周産期母子医療センター
〃	嘉 悦 明 彦	13	福岡大学医学部 公衆衛生学
〃 (筑紫病院支部長)	諸 江 一 男	3	福岡大学筑紫病院 内科第一
〃	石 井 龍 一	5	福岡大学筑紫病院 泌尿器科
〃	増 田 登 一	1	増田内科小児科医院
〃	山 崎 節 一	1	山崎内科クリニック
〃	竹 下 盛 重	3	国立病院九州医療センター 検査科病理
〃	詠 田 由 美	3	婦人科詠田由美クリニック
〃	古 賀 哲 二	1	古賀整形外科
〃	浅 野 正 也	4	浅野整形外科医院
〃	津 田 恵 次 郎	4	つだこどもクリニック
〃 (嘉飯山支部長)	馬 郡 良 英	1	杏友会馬郡医院
〃	浅 倉 敏 明	8	浅倉整形外科医院
〃	中 村 卓 郎	8	中村内科医院
〃 (筑紫支部長)	権 藤 英 資	1	二日市整形外科病院

役 職 名	姓 名	回	勤 務 先
評議員	副 島 寛	2	副島医院
◇ (佐賀支部長)	福 岡 英 信	2	福岡病院
◇	豊 村 操	6	董ヶ丘医院
◇ (熊本支部長)	魚 返 英 寛	5	魚返外科胃腸科医院
◇	緒 方 健 一	6	おがた小児科内科医院
◇	中 村 英 助	6	医) 恵愛会 中村病院
◇ (宮崎支部長)	野 田 寛	4	野田医院
◇	山 下 行 博	2	愛仁会 植村病院 消化器科
◇ (鹿児島支部長)	山 下 亙	2	医) 拓和会 山下わたる内科
◇ (沖縄支部長)	野 原 薫	3	のはら小児科医院
◇ (広島支部長)	横 手 祐 司	3	老人保健施設コスモス園
◇ (関西支部長)	中 川 俊 正	1	大阪医科大学 病態検査学
◇	辻 祐 治	3	福岡大学医学部 泌尿器科学
◇	廣 瀬 伸 一	3	福岡大学病院 小児科
◇	久 保 次 郎	8	久保内科病院
七隈支部長	前 川 隆 文	2	福岡大学病院 外科第二
北九州支部長	坂 本 博 士	2	医) 坂本眼科医院
筑後支部長	津 村 和 孝	4	医) つむら眼科医院
長崎支部長	(欠)		
佐世保支部長	山 川 裕	4	山川医院
大分支部長	鬼 木 寛 二	1	威宜会日田中央病院

第10期理事業務分担

役 職 名	理 事 名	分 担 業 務
会 長	高 木 忠 博	総括
副 会 長	林 英 之	国試対策 (主)
副 会 長	重 田 正 義	総務 (主)、支部 (主)
理 事	権 藤 公 和	総務、支部
	朔 啓 二 郎	研究奨励賞 (主)、国試対策
	二 見 喜 太 郎	特命事項
	穴 井 堅 能	特命事項
	小 金 丸 史 隆	特命事項
	松 本 直 樹	財務 (主)
	柴 田 陽 三	パニックマニュアル (主)
	占 部 嘉 男	特命事項
	田 中 伸 之 介	名簿 (主)、財務
	上 村 精 一 郎	研究奨励賞
	田 野 茂 樹	学生
	井 上 隆 則	学生 (主)、会報 (主)
	武 末 佳 子	総会 (主)、会報
	笠 健 児 朗	学生
	立 川 裕	ホームページ (主)、会報

平成11年度収入支出決算

区分	科 目	11年度予算	11年度決算	予算決算比較	決 算 内 訳
収 入	繰 越 金	4,177,411	4,177,411	0	
	会 費 収 入	13,040,000	14,785,000	▲1,745,000	入会費113件:5,439,810 年会費584件:5,810,020 学年会費356件:3,535,170
	協賛金収入	1,965,000	2,419,200	▲454,200	名簿59件:231,890 ハニックマニアル547件:2,187,310
	手数料収入	2,500,000	1,401,025	1,098,975	紹介手数料:三井51,718、アリコ312,278 集金手数料:三井1,037,029
	雑 収 入	120,000	74,309	45,691	預金利息:3,809 広告:10,000 名簿:40,000 寄付金:10,000 その他:10,500
	預り金収入	122,000	110,716	11,284	給与源泉徴収税
	合 計	21,924,411	22,967,661	▲1,043,250	
支 出	給 与	2,191,000	1,903,354	287,646	給与、賞与:1,747,814 賞与:155,540
	旅 費	1,762,000	1,397,910	364,090	理事会、懇話会:170,100 評議員会:260,440 私大連絡会:376,260 その他の役員旅費:292,790 通勤費:298,320
	事務用品費	240,000	192,411	47,589	上質紙:47,764 APノット:21,000 他
	印 刷 費	5,538,000	5,950,276	▲412,276	会報:1,872,328 ハニックマニアル:3,843,000 封筒:85,050 その他:149,898
	通信運搬費	1,255,000	1,655,988	▲400,988	電信電話:119,423 切手葉書:158,670 別納郵便:1,355,710 その他:22,185
	設備工事費	0	67,200	▲67,200	FAX取換工事
	什器備品費	100,000	88,816	11,184	パソコン部品:69,048 テープレコーダー:19,768
	事 業 費	2,910,000	1,928,700	981,300	研究奨励費:700,000 学生会員補助:311,000 講師招聘費:260,000 国試奨励費:50,000 学生名簿補助:40,000 支部祝儀:120,000 慶弔贈与費:65,750 行事参加費:60,000 ハニックマニアル原稿費:250,000 その他:71,950
	会 議 費	1,220,000	666,614	553,386	研究奨励賞選考委:63,063 理事会:211,246 懇話会:58,327 評議員会:333,978
	公 租 公 課	70,000	70,000	0	法人県市民税
	雑 費	2,652,000	3,042,753	▲390,753	慶弔費:122,370 品代:1,633,152 会合費:725,746 税理士報酬:31,500 その他:529,985
	預り金支出	122,000	122,116	▲116	給与源泉徴収税
	引当金積立	2,000,000	2,000,000	0	会員名簿、ハニックマニアル等刊行費引当金積立
	予 備 費	1,864,411	0	1,864,411	(11-1評議員会において200万円を雑費に流用承認)
	合 計	21,924,411	19,086,138	2,838,273	
	収支差引	0	3,881,523	▲3,881,523	

◆平成11年度残金処分

残金(収支差引額) 3,881,523円は次年度繰越

◆平成11年度特別会計決算

	事 業 積 立 金	生 涯 教 育 基 金	刊 行 物 積 立 金	合 計
前 年 度 よ り 繰 越	78,700,999	2,286,316	0	80,987,315
本 年 度 増 加 額	2,000,000	0	2,000,000	4,000,000
本 年 度 受 取 利 息	1,587,488	41,489	0	1,628,977
本 年 度 減 少 額	0	0	0	0
本 年 度 未 決 算 額	82,288,487	2,327,805	2,000,000	86,616,292

平成11年度財産目録

平成12年5月31日現在

	一般会計	特別会計	合計	特別会計の内訳
I 資産の部	4,144,635	86,616,292	90,760,927	
1 流動資産	3,881,523	86,616,292	90,497,815	
① 現預金	3,881,523	86,616,292	90,497,815	
振替口座	216,220	0	216,220	
郵便通貯金	586,465	0	586,465	
郵便定期貯金	0	3,586,177	3,586,177	事業積立金:3,586,177
普通預金[福銀]	2,206,678	0	2,206,678	
普通預金[ｼﾞｬｲﾍﾞﾙ]	872,160	0	872,160	
定期預金	0	83,030,115	83,030,115	
福岡銀行	0	66,355,506	66,355,506	事業積立金:62,027,701 生涯教育基金:2,327,805 刊行物積立金:2,000,000
福岡ｼﾞｬｲﾍﾞﾙ銀行	0	16,674,609	16,674,609	事業積立金:16,674,609
現金	0	0	0	
② 有価証券	0	0	0	
2 固定資産	263,112	0	263,112	
① 有形固定資産	115,328	0	115,328	
② 無形固定資産	147,784	0	147,784	
II 負債の部	0	0	0	
III 正味財産(I - II)	4,144,635	86,616,292	90,760,927	
IV 前年度末財産	6,524,125	80,987,315	87,511,440	
V 増加額(III - IV)	▲2,379,490	5,628,977	3,249,487	

平成12年度事業計画

項 目	適 用	必要経費 (A)	科目内訳				平成11年度 (B)	比 較 (A-B)
			事業費	印刷費	通信運搬費	会議費		
会報の発行	印刷代：春180×4,100部=738,000 秋200×3,500部=700,000 封筒代：15×7,600=114,000 郵送料：春160×2,700=432,000 秋200×2,100=420,000	2,404,000		1,438,000 114,000	852,000		1,927,000	477,000
パンニックマニュアル の発行	(本年度は実施せず)	0					4,645,000	△4,645,000
総会の開催	総会準備会費	200,000	200,000				200,000	0
研究奨励費	3件以内 (1件30万円以下)	900,000	900,000				800,000	100,000
卒後教育	講師招聘費 5,000×12支部	600,000	600,000				600,000	0
学生会員補助	西医体活動、医学祭に対する補助： 500×627名	314,000	314,000				310,000	4,000
学生名簿の補助	学生名簿作成の補助	50,000	50,000				50,000	0
国試対策費	国試対策費：200,000 国試験懇談会：150,000	350,000	200,000			150,000	300,000	50,000
支部祝儀贈与	支部発足：50,000×2=100,000 支部会参加：30,000×10=300,000	400,000	400,000				400,000	0
行事参加	学生行事への参加：50,000+30,000×3=140,000	140,000	140,000				140,000	0
慶弔贈与	祝儀、弔慰金、見舞金：20,000×3=60,000	60,000	60,000				60,000	0
合 計		5,148,000	2,864,000	1,552,000	852,000	150,000	9,432,000	△4,014,000

積立金より支出

奨学金緊急貸与	緊急時における奨学金の貸与(必要に応じ)	2,000,000
---------	----------------------	-----------

平成12年度収入支出予算

区分	科 目	12年度予算額 (A)	12年度内訳	11年度内訳予算額 (B)	A-B
収入	繰 越 金	3,881,523		4,177,411	▲295,888
	会 費 収 入	13,781,000	入会費:49,880×95≒4,738,000 学年会費:9,930×500人×0.7≒3,475,000 年会費:9,930×1,402人×0.4≒5,568,000	13,040,000	741,000
	協賛金収入	786,000	ハニツクニツク:3,930×200人≒786,000	1,965,000	▲1,179,000
	手数料収入	1,350,000	紹介手数料:三井50,000 ｱｼﾞ300,000 集金手数料:三井1,000,000	2,500,000	▲1,150,000
	雑 収 入	12,000	1,000×12月	120,000	▲108,000
	預り金収入	122,000	給与源泉徴収税:8,200×12月+11,900×2回	122,000	0
	合 計	19,932,523		21,924,411	▲1,991,888
支出	給 与	2,646,000	給与:119,000×12月=1,428,000 賞与:119,000×2回=238,000 増員1名:週3日:5,390×156日≒840,000 賞与70,000×2回=140,000	2,191,000	455,000
	旅 費	1,790,000	理事会・懇話会:14,000×12回=168,000 評議員会:480,000 私大連絡会:80,000×2人+60,000×2人×2回=400,000 その他の役員旅費:400,000 通勤旅費:26,000×12月=312,000 その他:30,000	1,762,000	28,000
	事務用品費	240,000	20,000×12月=240,000	240,000	0
	印 刷 費	1,823,000	会報:春180×4,100部+秋200×3,500部=1,438,000 名簿追録訂正表:25×3,000=75,000 封筒:大15×10,000枚+中小10×4,000枚=190,000 その他:10,000×12月=120,000	5,538,000	▲3,715,000
	通信運搬費	1,293,000	電信電話:10,000×12月=120,000 別納郵便:160×2,700通+200×2,100通+80×2,000通=1,012,000 切手代:120,000 受取人払:70×300通=21,000 その他:20,000	1,255,000	38,000
	設備工事費	200,000	事務局移転に伴うもの	0	200,000
	什器備品費	500,000	事務局移転に伴う設備補充	100,000	400,000
	事 業 費	3,164,000	研究奨励費:900,000 学生会員補助:500×627=314,000 講師招聘費:50,000×12=600,000 学生名簿補助:50,000 国試対策費:200,000 支部祝儀:50,000×2+30,000×10=400,000 行事参加費:50,000×1+30,000×3=140,000 慶弔贈与費:20,000×3=60,000	2,910,000	254,000
	会 議 費	1,230,000	理事会:200,000 評議員会 1 回:500,000 学部長懇談会:200,000 国試懇談会:150,000 会長懇話会:100,000 奨励賞選考委員会:80,000	1,220,000	10,000
	公 租 公 課	70,000	法人県市民税:70,000	70,000	0
	雑 費	1,422,000	慶弔費:30,000×3=90,000 税理士報酬:32,000 会長渉外費:1,000,000 その他:300,000	2,652,000	▲1,230,000
	預り金支出	122,000	給与源泉徴収税	122,000	0
	引当金積立	2,000,000	次号会員名簿、同ハニツクニツク作成引当	2,000,000	0
	予 備 費	3,462,523		1,864,411	1,598,112
	合 計	19,932,523		21,924,411	▲1,991,888

教育職員人事（講師以上）

〔○内の数字は福大医学部卒業回〕
平成12.4.2～12.10.1

区 分	所 属	資 格	氏 名	発令日	摘 要
退 職	病 理 学 第 二	助 教 授	ト ー ト ・ チ ボ ー	12.6.30	
	内 科 学 第 三	助 教 授	司 城 博 志	12.9.30	華林堂病院院長
昇 格	消 化 器 科	講 師	早 田 哲 郎 ①	12.10.1	
	外 科 第 二	講 師	白 石 武 史	12.10.1	

医局長・医長名簿

(○内の数字は福大卒業回、筑紫病院の＊印は内科・消化器科の代表)

平成12年10月1日現在

所 属	医 局 長	病 棟 医 長	外 来 医 長
[福 大 病 院]			
血 液 ・ 糖 尿 病 科	鈴 宮 淳 司	熊 川 みどり	一 瀬 一 郎
循 環 器 科	浦 田 秀 則 ③	熊 谷 浩 一 郎 ⑦	辻 恵 美 子
消 化 器 科	青 柳 邦 彦	山 本 智 文	前 田 和 弘 ③
腎 臓 内 科	兼 岡 秀 俊	村 田 敏 晃	武 田 誠 司 ⑪
呼 吸 器 科	渡 辺 憲 太 朗	豊 島 秀 夫 ⑧	石 橋 正 義
神 經 内 科 ・ 健 康 管 理 科	宗 清 正 紀	中 島 雅 士 (6北)	高 橋 三 津 雄 (神 經)
〃		稲 田 博 道 ⑬(7階)	松 永 洋 一 ⑤(健 管)
精 神 神 經 科	伊 藤 正 訓 ⑩	福 井 敏	鈴 木 智 美 ⑩
〃 (テイクア)			入 沢 誠 ⑭
小 児 科	小 川 厚 ⑥	安 元 佐 和 ⑦	松 本 一 郎 ⑩
外 科 第 一	田 中 伸 之 介 ⑤	中 村 浩 ⑪	宮 崎 亮 ⑤
外 科 第 二	酒 井 憲 見 ⑧	前 川 隆 文 ②	岩 崎 昭 憲 ⑤
整 形 外 科	副 島 修 ⑨	張 敬 範 ⑫	井 上 敏 生
形 成 外 科	棚 橋 慎 治 ⑫	江 良 幸 三 ⑨	棚 橋 慎 治 ⑫
脳 神 經 外 科	繼 仁 ⑧	繼 仁 ⑧	山 本 正 昭 ⑦
心 臓 血 管 外 科	立 川 裕 ⑬	芝 野 竜 一 ⑭	村 井 映 ⑭
皮 膚 科	久 保 田 由 美 子	清 水 昭 彦	渡 邊 亜 紀 ⑮
泌 尿 器 科	田 原 春 夫 ⑤	田 丸 俊 三 ⑨	鐘 ケ 江 重 宏 ⑪
産 婦 人 科	井 上 善 仁	牧 野 康 男 ⑧(3東)	澄 井 敬 成
〃		江 口 冬 樹 ⑥(3北)	澄 井 敬 成
眼 科	松 井 孝 明 ⑪	尾 崎 弘 明	野 下 純 世
耳 鼻 咽 喉 科	坂 田 俊 文 ⑩	柴 田 憲 助 ⑨	原 田 博 文
放 射 線 科	北 川 晋 二	秋 田 雄 三	東 原 秀 行 ⑥
麻 酔 科	櫻 木 忠 和 ③	平 田 和 彦 ⑫	平 田 和 彦 ⑫
歯 科 口 腔 外 科	豊 福 明	喜 久 田 年 弘	内 藤 温 友 ⑮
病 理 部	原 岡 誠 司		
臨 床 検 査 部	野 元 淳 子 ⑨		
輸 血 部	伊 藤 晃 ⑪		
救 命 救 急 セ ン タ ー	吉 村 豊 暢 ⑦	平 田 雅 昭 ⑪	
[筑 紫 病 院]			
筑 紫 病 院 (代 表)	石 井 龍 ⑤		
内 科 第 一	諸 江 一 男 ③	三 原 宏 之 ⑨*	宮 脇 龍 一 郎 *
内 科 第 二	有 富 貴 道 *	二 宮 寛 ②	二 宮 寛 ②
消 化 器 科 ・ 内 視 鏡 部	真 武 弘 明 ⑧	戸 原 恵 二 ⑧	八 尾 建 史
小 児 科	新 居 見 和 彦 ⑤	新 居 見 和 彦 ⑤	津 留 徳
外 科	河 原 一 雅 ⑫	城 下 豊 生 ⑬	東 大 二 郎 ⑮
整 形 外 科	有 永 誠 ⑧	有 永 誠 ⑧	伊 崎 輝 昌
脳 神 經 外 科	風 川 清	風 川 清	上 野 恭 司 ⑫
泌 尿 器 科	石 井 龍 ⑤	平 浩 志 ⑮	石 井 龍 ⑤
眼 科	武 末 佳 子 ⑪	藤 原 恵 理 子	武 末 佳 子 ⑪
耳 鼻 咽 喉 科	宮 城 司 道 ⑨	宮 城 司 道 ⑨	宮 城 司 道 ⑨
放 射 線 科	小 野 広 幸 ⑦		
麻 酔 科	水 城 透 ③		
病 理 部	溝 口 幹 朗 ⑥		

福岡大学病院曜日別外来診療担当医表

平成12年10月1日現在

		月	火	水	木	金	土
内科	血液・糖尿病科	初診 高松、市川 再診 浅野 再診 野見山 (午後)	小野・朝川・向野 (午前・午後) 野見山	木村・野見山 田村	田村・安西・一瀬・シレンベル 木村・鈴宮・瓦・安西・高松 シレンベル・久野 (午後)	浅野・鈴宮 向野 (午前)・市川 安西・小野	一瀬・明比 当番医
	医療相談	一瀬・高松 (午後)	田村・鈴宮 (午後)	木村・龍川 (午後)	田村 (午後)	一瀬・木村 (午後)	
	循環器科	初診 佐々木・田代 再診 熊谷・野元・土屋	浦田・辻	松永・野田 佐々木・出石・浦田・山之内	当番医	出石・朝 荒川・辻	山之内 熊・松永・野田・田代
	消化器科	初診 早田・後藤 再診	向坂・山本 向坂・山本 (午後)・秋吉・鈴木	青柳・秋吉 青柳・前田 (午後)・辻	瀬尾・渡邊 瀬尾 (午後)・岩田	前田・岩田 早田	辻 後藤・渡邊
	腎臓内科 腎センター	初診 武田・小河原 再診	兼岡	斉藤	当番医	兼岡・野田 (※)	当番医
	呼吸器科	初診 吉田・西田 再診 渡辺	内藤・小河原	石橋 吉田・豊島		渡辺 石橋・西田	
	神経内科	初診 高橋・中島 (午後)・西丸 再診 川浪・亀井・山田・高橋 (午後) 山田 (予約制)	西丸	中島		山田・川浪・亀井・高橋 西丸・石田 山田 (予約制)	石田 西丸・川浪・亀井・山田・高橋
	健康 管理科	初診 健管当番医 再診 宗清・福田・斉藤	健管当番医 小川・松永・高橋	健管当番医 宗清・福田・斉藤	松永 福田・中本	健管当番医 小川・高橋・斉藤	健管当番医 宗清・小川・高橋
	健康 相談科	初診 健管当番医 再診 宗清・福田・斉藤	健管当番医 小川・松永・高橋	健管当番医 宗清・福田・斉藤	松永 福田・中本	健管当番医 小川・高橋・斉藤	健管当番医 宗清・小川・高橋
	東洋医学	宮本 (漢方・予約制・隔週)				清水・向野 (義) (針灸・予約制)	向野 (義) (予約制)
外科	外科第一	池田・志村・濱田・高数・真実城 宮崎・田中 (仲)・中村		池田・安波・濱田・志村 高数・永井・中村・宮崎		安波・志村・濱田・池田 田中 (仲)・宮崎・笠	
	外科第二		白日・岩崎・吉永 酒井・米田・三上		白日・山下・川原 前川・白石・馬場		白日・山下・川原 前川・宮崎・他 (交代制)
	小児外科	浅部 (午後予約)		浅部 (午後予約)	浅部	浅部 (午後予約)	浅部
	心臓血管外科	交代制	木村・岩隈・立川	交代制	田代・中村 (克)・村井	木村 (予約のみ)	交代制
整形外科	初診 柴田・生野・神崎 再診 本荘・佐伯・加藤 ☆専門外来 (手の外科再来:副島) 脊椎再来:楠田 (午前) 大慈弥・江良 特殊小児外来:大慈弥 スキネクア:江良	神崎・生野・神崎 毛利・山口・神崎 設間節再来: 内藤・浅山・古賀	内藤・神崎・緑川・本荘 井上・副島・張 リウマチ再来:生野	楠田・深水 吉村・浅山・古賀・平井 藤・藤・張 スポーツ:岩本・緑川	柴田・加藤 神戸・藤澤・佐伯・金澤 肩再来:柴田・緑川 小児整形外科:井上	交代制	
	形成外科	初診・再診 大慈弥・江良 午後専門外来 特殊小児外来:大慈弥 スキネクア:江良		江良	大慈弥・櫻橋 乳房再建:大慈弥 創傷ケア:櫻橋 レーザー:櫻橋・江良	蜂須賀 安波・志村・濱田・池田 田中 (仲)・宮崎・笠	櫻橋
産婦人科	初診 瓦林 再診 井上・田村・京野	蜂須賀 井上・金岡 産科超音波外来 牧野・京野	金岡 本荘・京野	瓦林 井上・江口・牧野	蜂須賀 澄井・宮川・牧野	交代制 2・4週のみ思春期 (井上・澄井・本荘・交代制)	
	産科	蜂須賀・江口・宮川 井上・澄井 本荘		本荘 澄井 牧野・京野		蜂須賀・江口・宮川 澄井・本荘 井上	
	午後専門外来	産科超音波外来					
	中高年	井上・田村・藤本				牧野・京野	
放射線科	神宮・秋田	北川 乳癌外来 岡崎・藤光	岡崎・東原		神宮・秋田・東原		
	初診・再診 中山・桐生 再診 久保田・渡邊	中山・久保田 清水・渡邊	桐生 カ久・川内	桐生・久保田 清水・川内	中山・桐生 渡邊・カ久	交代制 久保田・カ久・渡邊・川内	
	眼科	大島・加藤・松井 野下・右田・相良	予約再来	大島・林・大里・諸見里 末廣・松垣 入院中他科可 大島・鎌ヶ江・道永 予約再来	予約再来 大島・田丸・鎌ヶ江 有吉・田原・中島 予約再来	林・加藤・尾崎・木村 山崎・大橋 入院中他科可 中島・道永 辻・田丸	予約再来
	泌尿器科	初診 入院中他科可 再診 予約再来	加藤・柴田・原田 今村・小倉	予約再来	加藤・坂田・今村 岡田・柴田・原田・小倉	坂田・今村・岡田・原田・小倉 (腫瘍外来)	
耳鼻咽喉科	初診 満留・濱本 再診 山口 (発達・心理) 藤川	満留・濱本 山口 (発達・心理) 藤川	満留・廣瀬 山口 (発達・心理) 藤川	柳井 松本 (腎臓) 新居見 (小児喘息・アレルギー) (13:30~15:30 松本 (感染・免疫) 山口	松本 小川 (発達・心理) 藤川 (循環器) 濱本 (発育・新生児) 雪竹・森 (内分泌・代謝) 廣瀬	山口 柳井・小川 (神経) 満留・小川・安元 (発育再来) 小川 (内分泌・代謝) 喜多山・伊藤 (頭痛) 満留	
	小児科	満留・濱本 山口 (発達・心理) 藤川	満留・廣瀬 山口 (発達・心理) 藤川	柳井 松本 (腎臓) 新居見 (小児喘息・アレルギー) (13:30~15:30 松本 (感染・免疫) 山口	松本 小川 (発達・心理) 藤川 (循環器) 濱本 (発育・新生児) 雪竹・森 (内分泌・代謝) 廣瀬	山口 柳井・小川 (神経) 満留・小川・安元 (発育再来) 小川 (内分泌・代謝) 喜多山・伊藤 (頭痛) 満留	
	午後専門外来	井上・田村・藤本				牧野・京野	
	脳神経外科	福島・岡・山本 継 石井 諸江 内田・藤内 鈴木・入澤	西村・鈴木 鈴木・藤内 内田	福島・岡・山本 継・大野 西村・鈴木 石井・諸江	石井・内田 諸江 鈴木・藤内 諸江・伊藤	福島・岡・山本 継 西村・内田 諸江 鈴木・藤内	伊藤 石井 内田・諸江・藤内・入澤
精神神経科	初診 (予約制) リエゾン初診 (予約制) 再診一般 (予約制) 専門外来 (予約制)	比高・平田・石橋 松永・当直医 都・喜久田 内藤・豊福 午後予約再来	予約再来 松永・当直医	比高・平田・石橋 松永・当直医 喜久田・豊福 午後予約再来	予約再来 松永・当直医	比高・平田・石橋 松永・当直医	予約再来 松永・当直医
	麻酔科	ベイン・フニク 術後サービス					
	歯科 口腔外科	初診 比高・平田・石橋 松永・当直医 都・喜久田 内藤・豊福 午後予約再来	予約再来 松永・当直医	比高・平田・石橋 松永・当直医 喜久田・豊福 午後予約再来	予約再来 松永・当直医	比高・平田・石橋 松永・当直医	予約再来 松永・当直医
	内視鏡	内3・外1 放射線	内3・内4 (P.H) 放射線	内3・健管 外1	内3・外2	内3・健管 外1・外2	放射線 外2・内3 久保田
リハビリテーション科	岩崎		久保田	岩崎	久保田		

福岡大学筑紫病院曜日別外来診療担当医表

平成12年10月1日現在

			月	火	水	木	金	土	備 考
内科第一・内科第二・消化器科	内科第一		三好 大田(岳)	広木 中山	三原(宏) 岡本	諸江 宮脇	広木 宮脇	ローテーション	内科第一はすべて循環器
	内科第二		(糖内)二宮 森田	(糖内)佐々木 (呼) 有富	(糖内)二宮	森田	ローテーション	(糖内)加来 (呼) 有富	糖内:糖尿・内分泌 呼:呼吸器
	消化器科		(消)松井 (消)真武 (消)頼岡 (肝)坂口(正) (肝)三原(一)	(消)八尾(恒) (消)櫻井 (消)西村 (肝)嶋野	(消)永江 (消)嶋津 (肝)戸原	(消)八尾(建) (消)平井 (肝)光安 (肝)野間	(消)津田 (消)菊池 (肝)植木	(消)高木 (消)久部 (消)山口 (肝)田中(正)	消:消化管 肝:肝・胆・膵
	予 約	A M	(循)宮脇 (循)太田(岳)	(循)広木 (糖内)二宮	(呼)有富	(循)岡本 (糖内)佐々木	(循)諸江 (循)三原(宏) (循)三好	(糖内)加来	循:循環器 糖尿教室(火・水・金)
	再 来	P M	(循)太田(岳) (糖内)二宮 (消)松井 (消)櫻井 (消)真武 (肝)坂口(正)	(循)広木 (糖内)二宮 (消)八尾(恒) (消)西村 (肝)嶋野	(循)三原(宏) (糖内)二宮 (肝)戸原	(循)岡本 (消)八尾(建) (消)平井	(循)三原(宏) (糖内)佐々木 (糖内)加来 (消)津田 (消)菊池		
	X	線	櫻井、高木 吉田 西村	高木、平井 諸隈 八尾(建) 吉田	櫻井 永本、加来 八尾(建) 西村	津田、久部 嶋津 竹下 山口	松井、平井 永本 久部、吉田、諸隈	真武、菊池 永江、森田、諸隈、 吉田	
	内 視 鏡		永江 野間 田中(正) 八尾(建) 蒲池(嶋津)	松井、菊池 竹下、山口 嶋津、久部	津田 野間 頼岡	真武、永本 西村、高木	(櫻井)、真武 (頼岡) 田中(正) 山口、永本	光安 頼岡、尾石(樹) (西村) 蒲池、永本 三原(一)、(平井)	
	T C F		津田、菊池 永江 (頼岡)、高木 尾石(樹)	津田、平井 高木 久部 竹下	津田、頼岡 永江、嶋津 西村	津田 菊池 永江 平井	津田 平井、菊池 真武、久部		
	U	S	植木、戸原 尾石(樹)	戸原、野間 永本 光安	植木、三原(一) 諸隈	嶋野、戸原 三原(一) (加来) 諸隈、吉田	(放射線科) (加来)	嶋野 (竹下) 野間、吉田	
	心 エ コー トレッドミル		三原(宏)、安藤 中山	岡本 安藤	三好 諸江	中山 三原(宏)	太田(岳) 宮脇		
	E K G		太田(岳)、安藤	中山	岡本	三好	三原(宏)	諸江	
	S R L		太田(岳)、安藤	中山	岡本	三好	三原(宏)	諸江	
小 児 科	A M		津留、新居見、深町	新居見	津留、深町、福岡	津留、深町、福岡	津留、時枝	津留*、新居見	* 第2、4
	P M		嵯峨	深町、福岡	深町、福岡	新居見	嵯峨	深町、福岡	
	専 門	A M	(低身・腎・夜尿) 津留		(低身・腎・夜尿) 津留		(低身・腎・夜尿) 津留		藤川:第2・4水 松本:月1回不定 濱本:第2・4金 柳井:第2木 大府:毎週木
		P M			(心理)藤川 (予防)深町、福岡	(神経)大府 (血液)柳井 (丸井)松本	(循環)濱本		
	外 科		河原 永川	有馬 二見 冨安	城下 紙谷	長谷川 東	有馬 二見 石橋	大河原 関	
整形外科			松崎、有永、荒牧	塩田、小嶺	松崎、伊崎、森下	有永、小嶺	塩田、伊崎	ローテーション	
脳神経外科	A M		田中、上野	風川(田中)	田中、上野	田中(風川)	風川、野元	田中、野元	
	P M		上野						
泌尿器科	A M		予約再来	平塚、石井、岡留	予約再来	平塚、岡留	予約再来	石井、岡留	
	P M			石井					
眼 科			武末、今井、指原	手術日	向野、藤原、横尾、指原	手術日	武末、藤原、今井、宇野	予約再来	
耳鼻咽喉科			森園、川端	手術日	森園、宮城、川端	手術日	宮城	特殊再来	



平成13年度 福岡大学医学部同窓会 研究奨励賞募集要項

対 象：正会員及び準会員で、40才未満の者または学部卒業後10年未満の者
（本会会費完納を条件とする）

研 究 課 題：医学に関するものであれば自由（医学に関する研究計画又は研究論文）

申 請 方 法：所定の申請書による（支部長推薦を要す）

提 出 先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
Tel 092-865-6353 Fax 092-865-9484

締 切：平成13年4月30日

賞状・賞金：1件30万円を限度とし、奨励賞（優秀論文賞を含む）3件程度

発表及び表彰：平成13年7月上旬、第20回同窓会総会席上

- そ の 他：
- ①受賞者は研究報告書を提出する事（研究は2年以内に終了）
 - ②受賞者は研究成果を総会で口演するか同窓会会報に発表する事
 - ③申請書は同窓会事務局に請求の事
 - ④申請書はワープロで記載し、過去の研究業績（原著、著書、症例報告、学会発表）、研究の独創性・重要性を十分に書く事

事務局からの連絡とお願い

- ◆皆様からの 会報原稿 をお待ちしております。卒業生を送り出して23年が過ぎました。早い卒業の方は既に半世紀を生き抜き、医師としても四半世紀の人生が積み重ねられた事になります。そういう貴重な人生の生き様、趣味、回顧などを後輩のために、そして会報に重みと貫禄をつけるために是非投稿をお願いします。原稿の大きさは自由です。小さな投稿のためには会報に投稿用の葉書も添付しています。
- ◆会報に『部長奮闘記』（今号は記事多数のため休載）の連載をしています。部長さんは進んでご投稿下さい。原稿は2,400字以内、関係写真とご自分の顔写真をつけて下さい。
- ◆来年の暮れ、会員名簿第7号を発行します。勤務先、住所など変更がありましたら会報に添付の葉書で早めにお知らせ下さい。新名簿の配布方法について、同窓会費完納者とそうでない人との間に差をつけるべきだと言う意見があります。従来は会員全員に無条件に配布していましたが今後検討される事になりましょう。
- ◆会費の納入：先に請求書を差し上げましたB会員（支部徴収以外の会員＝主として勤務医、支部未設立の地域の会員）の方は、会費をなるべく本年年末までにお納め下さい。本年度年会費徴収対象は1～13回生です。

編 集 後 記

今から十数年前になるが、初めて同窓会の会報作りに関わったのは、研修医1年目すぐの時だった。医局の先輩が担当してた事で言われるままだったけれど、確か「表紙の写真を撮ってきて」というものだった。仕事で忙しい？あいまをぬって大きなカメラをひとつ手に持って医学部の周囲をあちこち歩いて、勝手にマンションの階段にあがりこんで写真を撮ったものである。さて、その写真が採用されたかどうか記憶にはっきりしていない。

しかし、確実に当時のうすっぺらな会報誌がよくここまで豊富な内容に進歩してきたものだとしみじみ思う。もうすぐ2001年。21世紀のはじまりから、さらなる発展を遂げていくことだろう。（井上）

編集委員

井 上 隆 則（7回生）
 松 田 年 浩（5回生）
 武 末 佳 子（11回生）
 立 川 裕（13回生）

烏帽子会会報第 29 号

発行日 平成 12 年 11 月 15 日

発行人 高木忠博

編集人 井上隆則

発行所 〒 814-0180

福岡市城南区七隈 7-45-1

福岡大学医学部同窓会

電話.092-865-6353 (直通)

092-801-1011 (代表)

内線 3032

FAX.092-865-9484

印刷所 ロータリー印刷(株)